



# CSR Report 2010

[www.toyota-tsusho.com](http://www.toyota-tsusho.com)



1948年の設立以来、豊田通商グループは、グローバルな視野で事業を展開し、「付加価値の創造」を基本として商品やサービスを提供してきました。

現在では世界中のグループ会社が連携して製造、加工、リテール、サービスなど各地の状況やニーズに応じた事業を行っています。

豊田通商グループは、世界中に持つネットワークと国際協業のノウハウ、また、トヨタグループの中で培った強みを十分に発揮し、柔軟な発想と的確な提案を行う新しい商社像を目指していきます。



## Profile (2010年3月31日現在)

会社名	豊田通商株式会社
設立年月日	1948(昭和23)年7月1日
資本金	64,936百万円
発行済株式総数	354,056,516株
本社	〒450-8575 名古屋市千代田区名駅四丁目9番8号(センチュリー豊田ビル)
東京本社	〒100-8320 東京都千代田区丸の内三丁目8番1号(豊田通商丸の内ビル)
支店・営業所	北海道、東北、新潟、浜松、松本、三島、豊田、刈谷、大阪、北陸、広島、九州、福山、高松
拠点数	国内：16拠点 海外：28拠点
連結対象会社数	国内：67社 海外：222社
従業員数	3,081名

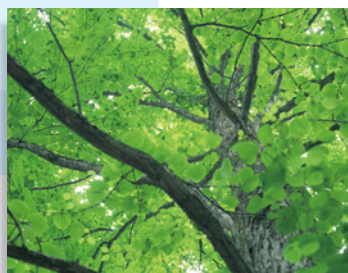
**CSRレポート編集方針** 豊田通商株式会社(以後、豊田通商と略記)は、2002年より環境報告書をホームページ上で公開してきましたが、2005年よりCSRレポートとして統合しております。

- 本レポートは、持続可能な地球社会の形成を目指す豊田通商の取り組みをステークホルダーの皆さまに報告することを目的としています。
- 豊田通商の企業理念やビジョンの実現そのものが、CSR活動であることをご理解いただけるよう、現場の事例を中心に報告しています。
- 特集では、環境や社会性と豊田通商グループの関連性について、6つの事業領域での取り組みをサステナビリティ(持続可能性)の観点を通して報告しています。

**参考にしたガイドライン** GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006(G3)」  
環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

**報告対象範囲** 豊田通商株式会社、主要連結子会社および関係会社  
2009年度(2009年4月1日～2010年3月31日)の豊田通商グループの活動を対象にしています。  
(一部に単体での活動、上記以外の期間の活動を含みます。)

発行：2010年10月  
発行責任者：取締役社長 清水順三



## Contents

01 会社概要／編集方針

03 ごあいさつ

05 豊田通商グループのCSR

07 豊田通商グループの事業

09 特集1 ● 金属本部

12 特集2 ● 機械・エレクトロニクス本部

13 特集3 ● 自動車本部

15 特集4 ● エネルギー・化学品本部

16 特集5 ● 食料本部

19 特集6 ● 生活産業・資材本部

21 社会貢献活動

### 社会性報告

26 安全への取り組み

31 人事面への取り組み

### 環境報告

35 環境への取り組み

### コーポレート・ガバナンス

41 コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

43 ステークホルダーとのコミュニケーション

44 連結財務ハイライト

45 豊田通商グループの活動記録

46 アンケート結果報告



ごあいさつ

# 変革期においても新たな価値を創造し、 持続可能な社会づくりに 貢献していきます

TOYOTA TSUSHO CORPORATION ■■■  
CSR REPORT 2010 ■■■  
Junzo Shimizu ■■■

取締役社長

清水順三

豊田通商グループはCSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を特別な取り組みではなく、企業活動のすべてのあり方を律する、経営そのものであると考えています。さまざまな事業活動を通して「安全文化の構築」「多様な人材による価値創造」「環境への取り組み」「社会貢献活動への取り組み」を推進し、企業理念である「人・社会・地球との共存共栄をはかり、豊かな社会づくりに貢献する」新しい商社像を目指しています。

## 変革期を好機ととらえ、 企業価値の向上に努める

現在、世界経済と社会構造は大きな変革を迎えています。こうした変革期は将来の成長につながる多くのビジネスチャンスが存在すると同時に、当社の価値創造の源泉である人材の成長にとっても大変貴重な機会であると考えています。本年度も厳しい経営環境が続くことが予想されますが、当社はこの変革期をむしろ好機ととらえ、「考える」「挑戦する」「変化する」をキーワードに掲げ、企業ビジョンの実現を目指して堅固な経営基盤の構築と成長に向けての挑戦を実践していきます。





## 「変化」を実現するために 挑戦すべきテーマ

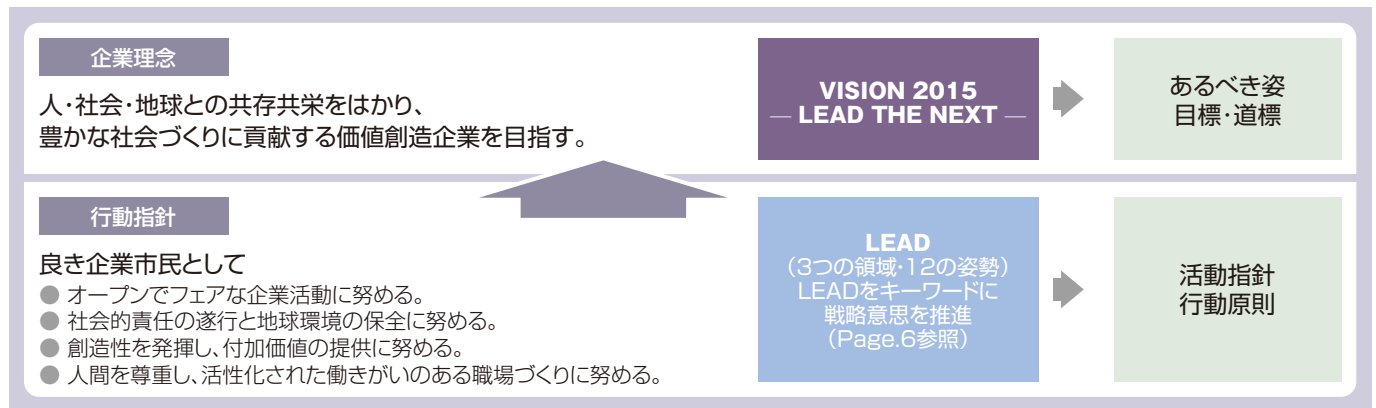
当社は「環境」を挑戦すべきテーマの一つと考えています。今年、国連の定めた「国際生物多様性年」にあたり、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が名古屋で開催されたことも記憶に新しいかと思えます。今こそ私たちは地球規模で環境問題に「挑戦」し、多様な生物が共存共栄できる社会づくりを目指す必要があります。当社は、これまで自動車リサイクルや新エネルギーなどの環境事業に取り組んできました。これからも「環境」に対する意識を一層高め、事業活動を通じて持続可能な社会を実現できるよう努めていきます。

今後も当社は世界中のステークホルダーの皆さまとの関係を念頭において国内外の法令を遵守し、「環境保全・社会との共存」を軸として誠実な事業活動を行ない、業績面の向上だけでなく、これまで以上に地球規模で環境や社会への責任を果たしていきます。

# 豊田通商グループのCSR

## CSR方針

豊田通商グループのCSR方針は、行動指針やLEADに従い、企業理念・ビジョンを実現することです。

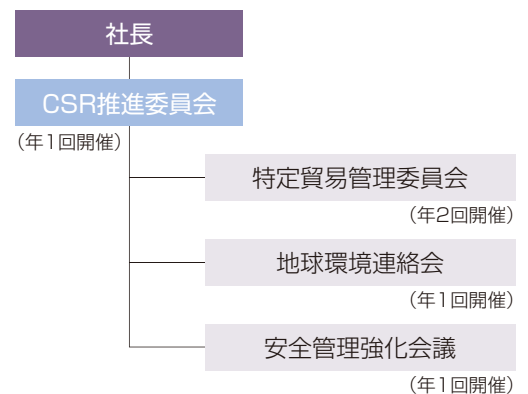


## CSR体制

2005年1月、前身の企業倫理委員会を改組する形で発足した「CSR推進委員会(委員長:社長)」が、現在の豊田通商グループのCSRを考える中心組織となり、年一回開催されています。

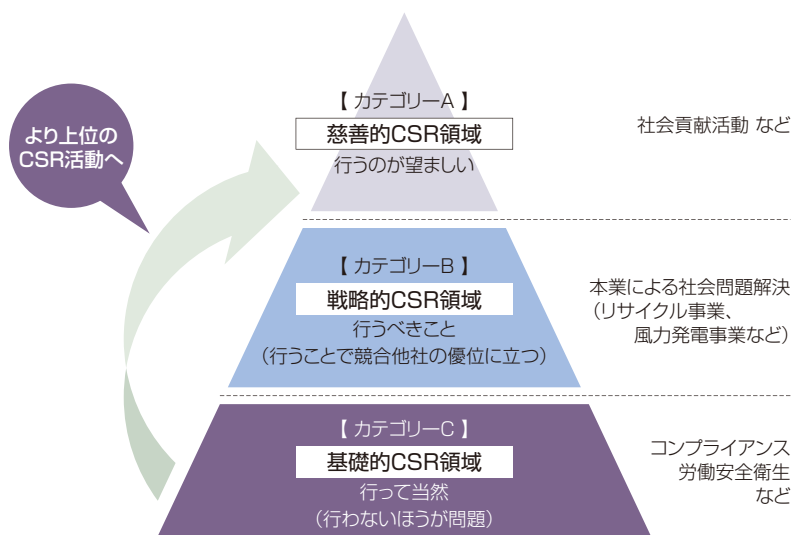
委員会では、全社横軸の観点から、各商品本部の企画部長及びコーポレート本部・業務本部の部長が活動実績・課題などについて委員(経営陣)に報告を行い、今後の方向性や方策について指示を受けています。

また2010年6月よりCSR推進委員会の下部組織として、「特定貿易管理委員会」、「地球環境連絡会」、「安全管理強化会議」を改組し、それぞれのCSR活動を積極的に取り組める体制を構築いたしました(右図)。新体制にて今後もグローバルベースでの活動を展開し、社会へ付加価値を提供していきます。



## 豊田通商の考えるCSR階層図

従来、コンプライアンスや労働安全といった「基礎的CSR」(右図)に関する事柄が議論の中心でしたが、高まる社会からの期待に応えるべく、近年は「戦略的」「慈善的」CSR領域の取り組み強化についても、積極的に議論を進め、企業価値の最大化に努めています。

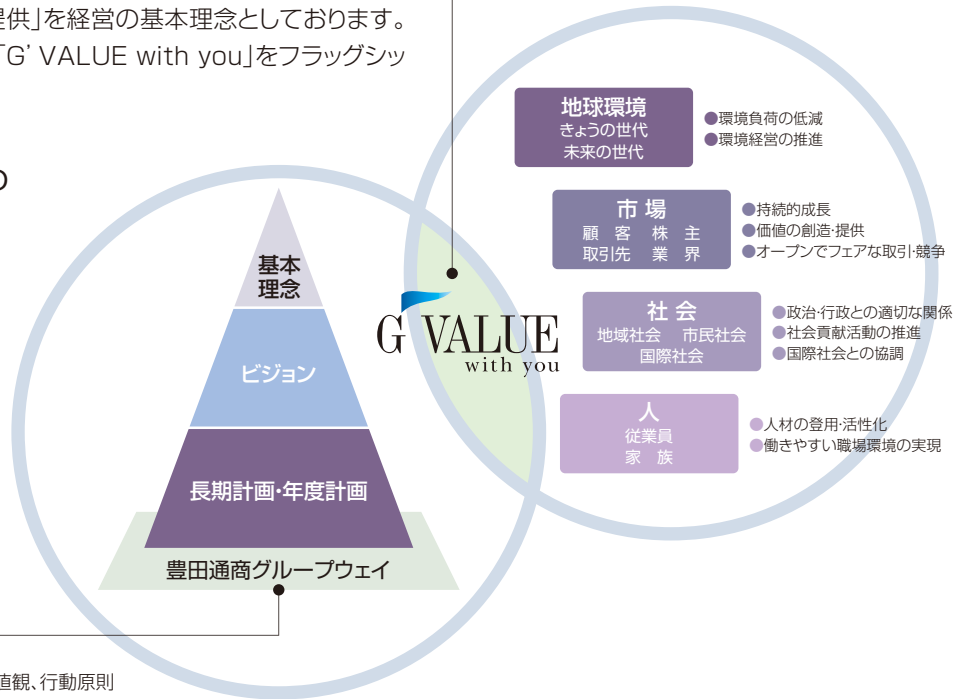


## 理念体系

豊田通商グループは、「人・社会・地球との共存共栄をはかり、豊かな社会づくりに貢献する価値創造企業を目指す」という企業理念のもと、オープンでフェアな企業活動に努めるとともに社会的責任の遂行と地球環境の保全に取り組み、創造性を発揮して、お客様、株主、従業員、地域社会など、すべてのステークホルダーにご満足いただける「付加価値の提供」を経営の基本理念としております。この実現に向け、豊田通商グループは、「G' VALUE with you」をフラッグシップ・メッセージに掲げています。

### ● フラッグシップ・メッセージ

「G' VALUE with you」は企業理念の実現に向けた、豊田通商グループの合言葉です。



### ■ ステークホルダーの皆さまとの良好・良質な関係の構築

#### ● 豊田通商グループウェイ\*

基本理念の実現やビジョンの達成に向け、すべての豊田通商グループ役職員が共有すべき価値観、行動原則

\*「現地・現物・現実」「商魂」「チームパワー」

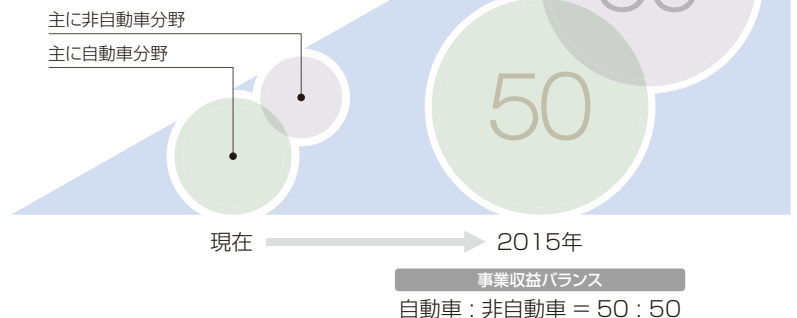
## VISION 2015 – LEAD THE NEXT –

豊田通商グループは、企業ビジョンとして「VISION 2015 –LEAD THE NEXT–」を掲げ、「価値創造企業」として、6つの事業領域=6つの商品本部で次世代ビジネスを創造し、将来的には事業収益のバランスで、自動車分野：非自動車分野=50：50の実現を目指すことを戦略意思としております。

またL.E.A.D.をキーワードに、「機能」「体質」「責任」という3つの領域からなる12の姿勢を通じて、戦略意思を推進してまいります。

### ■ 事業領域(=6本部)

主に自動車分野	主に非自動車分野
金属	
機械・エレクトロニクス	
自動車	
エネルギー・化学品	
	食料
	生活産業・資材



### ■ L.E.A.D.(3つの領域・12の姿勢)

	L	E	A	D
機能	Linkage (連鎖)	Engineering (技術発掘)	Added Value (付加価値)	Development (開拓)
体質	Lean (筋肉質・無駄のない)	Entrepreneurial (起業家の)	Agile (俊敏な)	Dynamic (大胆な)
責任	Legality (適法・遵法)	Ethics (倫理・道徳)	Accountability (説明責任)	Disclosure (情報開示)



# 豊田通商グループの事業

## 主な取り扱い品目

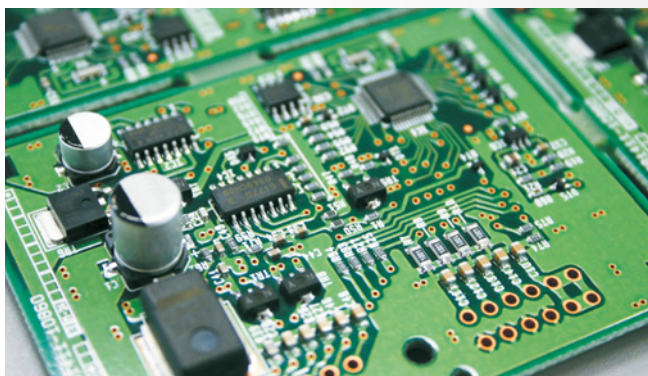
### 金属本部



特殊鋼

- 普通鋼、特殊鋼、建設鋼材
  - 非鉄金属地金、貴金属地金
  - 軽圧品、伸銅品
  - 鉄くず、非鉄金属くず
  - 合金鉄、鋳鉄
  - 使用済み自動車・廃触媒
- これらの加工・製造・処理・販売など

### 機械・エレクトロニクス本部



半導体製品

- 工作機械、産業機械、繊維機械
  - 試験計測機器 ● 環境設備 ● 情報通信機器
  - 電子デバイス、半導体
  - 自動車組込ソフト開発
  - 電子装置 ● ネットワーク構築・運営
  - パソコン、周辺機器および各種ソフトウェア
  - 自動車生産用部品
  - 産業車輛、建設機械 ● ITS機器
- これらの販売・サービスなど

### 自動車本部



船積みされる自動車

- 乗用車
  - 商用車
  - 軽四輪自動車
  - 二輪車
  - トラック・バス
  - 車両部品
- これらの販売・サービスなど

## エネルギー・化学品本部



風力発電

- 石油製品、液化石油ガス
  - 石炭 ●原油 ●石油・天然ガス製品
  - エネルギー・電力供給事業
  - プラント ●石油化学製品
  - 有機化学品 ●精密・無機化学品
  - 高機能特殊化学品
  - 油脂化学製品、合成樹脂、添加剤
  - 天然ゴム、合成ゴム
- これらの加工・製造・販売・サービスなど

## 食料本部



小麦・小麦粉事業

- 飼料原料
  - 穀物
  - 加工食品
  - 食品原料
  - 農水畜産物
  - 酒類
- これらの販売・サービスなど

## 生活産業・資材本部



衣料品

- マンション・商業ビル施設
  - 建築・土木資材、住宅資材、家具
  - 繊維原料 ●衣料品 ●インテリア製品
  - 寝装用品 ●繊維製品、繊維資材、宝飾品
  - 自動車内装用資材・部品
  - 包装資材 ●紙・パルプ
  - 損害保険・生命保険 ●可視光応答型光触媒
  - シニアビジネス関連商品
- これらの販売・サービスなど



# 金属本部



<http://www.toyota-tsusho.com/business/metal/>

鉄鋼原料部 部長 ● 加藤 則雄

グローバルなリサイクルのプラットフォームを構築し、資源循環型社会実現への貢献を行なっていきます。

未来永劫継続的なモノづくりを可能とするため、資源確保は非常に大きなテーマとなってきており、リサイクルを通じた資源循環ネットワークの構築の重要性は更に増しております。私どもは世界各地で金属資源のリサイクル事業・使用済み自動車のリサイクル事業・廃棄物マネージメント事業を通じて、ハード・ソフトの両面より資源循環のバリューチェーン構築に取り組んでいます。



## 持続可能なモノづくり社会の構築に向けて

金属部門では設立以来、主に、国内外の製造業者へ鉄・非鉄などの金属原料を安定的に供給する役割を担ってきました。それらを単なる素材としてではなく、それぞれが独自の特性や機能を持った商品としてとらえ、ユーザーやサプライヤーのニーズに応じて最適な商品として供給し、モノづくりにおける動脈部分をサポートしてきました。



そんな中、世界的な資源制約・資源枯渇、また大量生産による環境負荷の影響が顕在化しつつある現在、持続可能なモノづくりを行うためには、天然資源の消費抑制と環境負荷の低減を目指した循環型社会を構築する事が不可欠になっています。

豊田通商グループでは、この「持続可能なモノづくり社会」の構築に向け、国内外で資源効率の向上、循環資源の利用を進めています。製造業のお客様で発生する目的外生産物、社会で発生する不要物をリサイクル・適正処理する環境リサイクルプラットフォームを構築し、静脈物流バリューチェーン事業を目指します。このバリューチェーンの中で、環境、コンプライアンス、コストの管理を行い、お客様の「持続可能なモノづくり」を全面的にサポートしています。





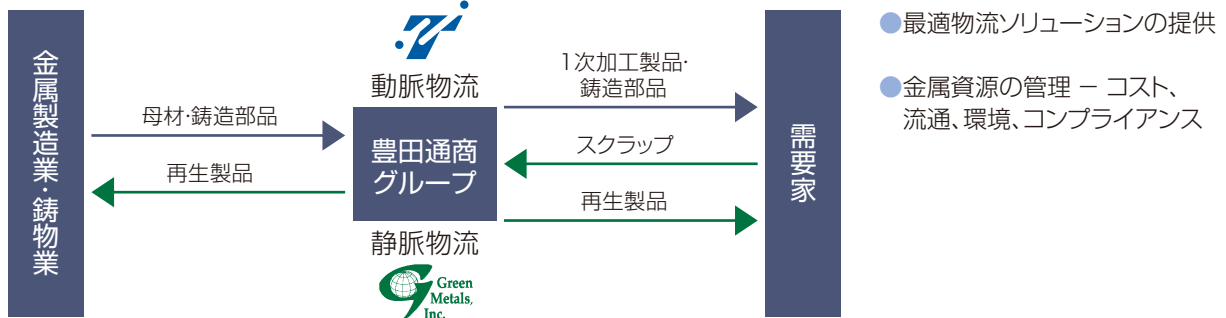
### a 金属リサイクル事業 [ グリーン・メタルズ各社 ]

事業内容：鉄スクラップ業、非鉄金属スクラップの加工処理

トヨタグループをはじめ、金属加工工場内で発生した金属屑を、回収・再利用する事業を行っています。従来、金属屑発生工場からは見えにくかった排出後の流通・処理経路、コスト等を透明化し、お客様へ安心を提供しています。また、金属加工工場へリサイクル金属資源を還流させることにより資源の安定的な確保にも貢献しています。

現在、金属リサイクル事業は、金属だけではなく工場排出物全般の管理等も請け負い、廃棄物のリサイクル化提案、排出元物流効率化提案など、積極的に生産サポートを行っております。

#### 豊田通商の機能 工場内リサイクル事業の展開例



### b アルミ溶湯供給事業 [ スメルティング・テクノロジー各社 ]

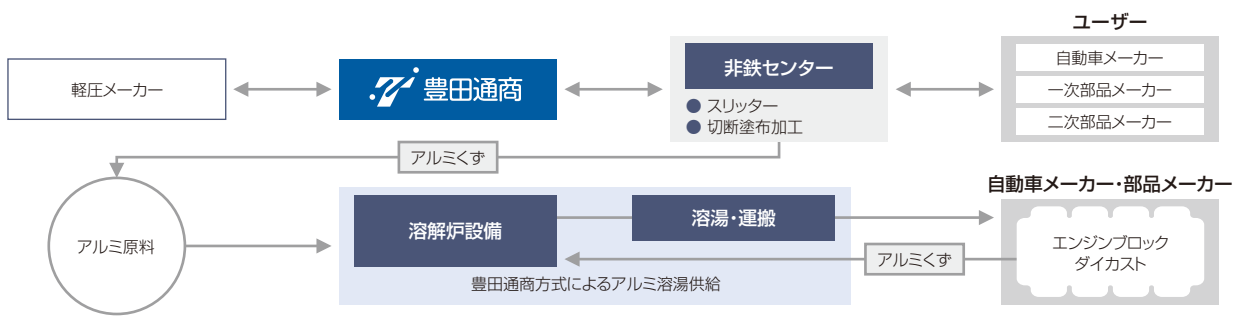
事業内容：リサイクルによるアルミニウム溶湯事業

非鉄金属分野では、アルミ製品の廃品と、アルミ製品製造段階で発生する不良品・削り屑から生成した再生アルミ合金を、お客様鋳造工程へ供給する事業を世界各国で展開しています。

従来、アルミ再生工程で行っていた材料の回収・溶解、インゴット化のうち、インゴット化工程を省き、湯の状態で供給することにより、お客様鋳造工程において、インゴットを再溶解する必要がなくなり、その結果、お客様のエネルギーコストの低減、またCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています。今後も、効率的な生産をサポートするため、更なるグローバルネットワークを構築していきます。



#### 豊田通商の機能 アルミ溶湯事業の展開



### c ELV・ASR処理事業 [ 豊田メタル(株) ]

事業内容：ELVからの金属屑類の回収・加工・販売、家電廃棄物の処理

自動車の生産・販売に深く関わっている企業として、ELVが地球環境へ与える負荷を低減することを目的に、総合ELVリサイクル事業を展開しています。同社は、国内最大級のシュレッダー設備を保有、ELVから鉄屑、非鉄金属などの資源を取り出し、リサイクルを行っています。またトヨタ自動車(株)と共同でASRリサイクルプラントを設置し、従来は埋め立て処分しかなかったシュレッダーダストの再資源化を推進し、リサイクル率向上を実現しています。

※ELV・・・使用済み自動車

※ASR・・・使用済み自動車から再利用できるものを取り除いた後の粉碎屑

# 金属本部



## d 貴金属回収 [ 豊通リサイクル(株) ]

事業内容：自動車触媒貴金属の回収・販売およびASRリサイクル事業

使用済みのクルマにはたくさんの貴重な資源が埋もれています。豊通リサイクルでは、全国の2,500社にもものぼる解体事業者と連携し、プラチナ・ロジウム・パラジウム等貴金属の回収及びリサイクル、中古パーツのリサイクル、エアバックのインフレーター回収・適正処理を行っています。



## e 廃棄物管理事業 [ エコマネージ・ネットワーク(株) ]

事業内容：産業廃棄物処理に関する電子マニフェストのASP事業

不法投棄など産業廃棄物が引き起こす社会問題は絶えることがない中、法規制も年々厳しくなっています。同社では、Web経由で使用可能な「廃棄物・資源循環管理システム」を産業廃棄物の排出事業者を提供しております。

このシステムを導入すれば、電子マニフェストによる廃棄物管理で、コンプライアンス確保の強化が実現でき、また、行政への廃棄物発生量報告や社内環境データ管理用の集計作業の手間が大幅に効率化されます。

その他にも、これら管理業務をサポートするための廃棄物管理に関する業務コンサルティングも合わせて行い、排出事業者様の静脈物流全般をサポートしています。

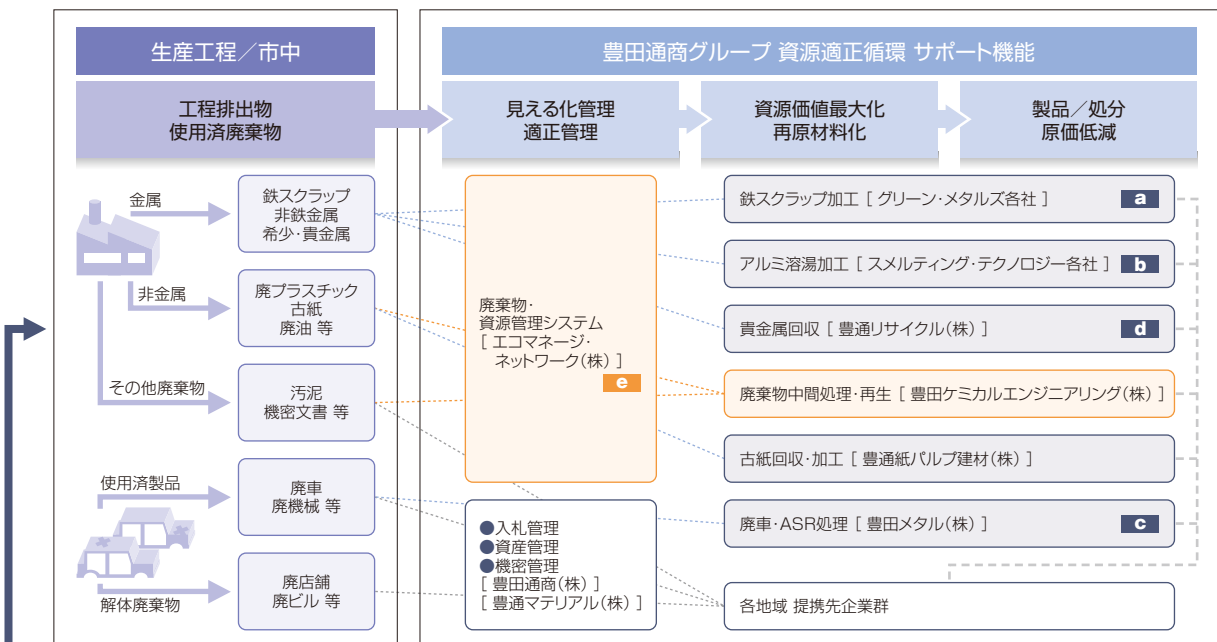


## 廃車パーツ有効利用事業 [ (株)エコライン ]

事業内容：ELV(使用済み自動車)リサイクルおよび工場廃棄物に関わるシステム開発・運用

循環型社会形成に貢献するため、自動車関連業者による自動車および自動車部品のリユース促進と、適正処理業務の効率化の支援をしています。豊田通商グループ企業の信用をベースに加盟店総数250社、在庫総数100万点以上を擁する自動車リサイクルパーツの巨大流通ネットワークを構築しています。また豊富に在庫されたリサイクルパーツを自動車整備会社様・部品商様を対象に会員制でインターネットで気軽に購入できるネットワークも運営しています。

## 豊田通商 資源適正循環サポート機能



循環型社会を構築し、持続可能なモノづくりをサポート

# 機械・エレクトロニクス本部



<http://www.toyota-tsusho.com/business/machinery/>



環境・プラント部 部長 ● 森田 孝

CO<sub>2</sub>削減で画期的な用途開発が行われました。  
地球温暖化対応の切り札になると信じています。

当社では、CO<sub>2</sub>排出量削減のために太陽光発電など様々な再生可能エネルギービジネスに取り組んでおりますが、その一環としてヒートポンプへの取り組みも強化しています。省エネ効果、CO<sub>2</sub>削減効果に優れているヒートポンプは最近、非常に注目を集めている技術です。リゾート施設、温浴施設へ導入に加え、家庭用での導入も進んでいますが、当社では、更に生産工場向け産業用ヒートポンプの提案を通じて、産業活性化と低炭素社会実現の両立に貢献したいと考えております。次世代に美しい地球環境を残すのは、現代に生きる我々の義務。これからもCO<sub>2</sub>削減を通じて、地球環境保全に貢献してまいります。

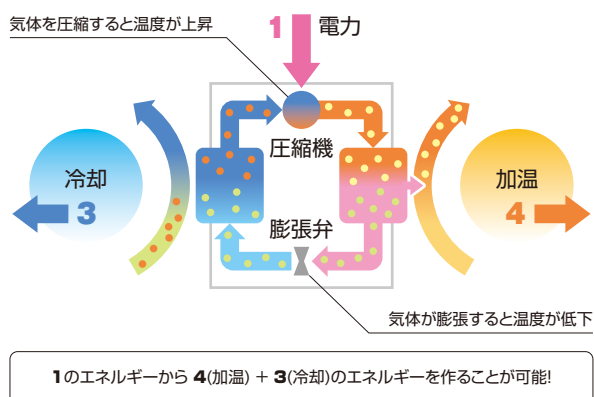


## ヒートポンプ導入促進への取り組み

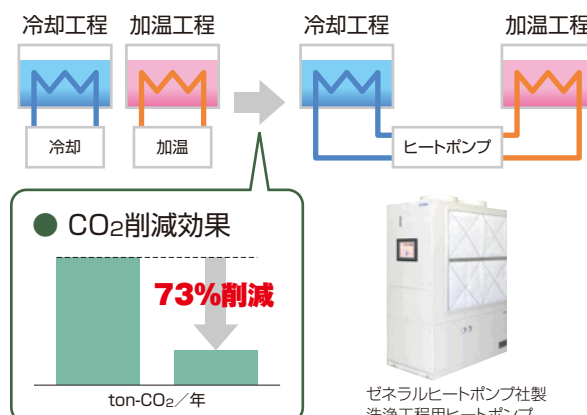
当社では、再生可能エネルギーとして近年注目を集めている、ヒートポンプの導入を促進しております。リゾート施設、温浴施設等への導入に加えて、生産工場へも積極的

な提案を行い、幅広い分野で低炭素社会の実現と地球環境保全を推進しております。

### ヒートポンプとは？



### 生産工程での導入事例





## 自動車本部



米州自動車部 部長 ● 北原 博志

地域に根ざした事業活動を通じて、  
社会貢献プロジェクトへの積極的な取り組みを続けます。

自動車本部は世界に177の出資拠点を展開し、より現地に根差した小売ビジネスの強化を図っています。現地では「販売」「部品」「アフターサービス」を三位一体として提供しており、それぞれの国・地域における企業市民として社会的責任の重要性を認識しています。当本部では、顧客、従業員、地域社会を含めたすべてのステークホルダーへの貢献を方針として掲げています。TDE社は当本部の重要事業体の一つで、今後も同社を初めとする各拠点の貢献活動を強化してまいります。

## TDE社※“エコバッグ普及促進の公式スポンサー”

エクアドルで29店舗のスーパーマーケットチェーンを展開しているSupermaxiがプラスチック製レジ袋に代わる布バッグの普及促進に乗り出しました。TDE社はこのエコバッグ導入の公式スポンサーです。展開プロモーションでは、エコバッグを購入したお客様にはトヨタ

プリウスが当たる抽選に参加できる特典がってきます。2009年9月、10月の2ヶ月間で3,300万点を超えるエコバッグが売れました。抽選は2010年1月に行われ、当選者にはTDE社の店舗で行われたイベントでトヨタプリウスが贈呈されました。 ※Toyota Del Ecuador S.A.



## TCR社\* “エコピネジチ”

クルク島のピネジチ付近の海やビーチをきれいにするエコピネジチが2009年9月19日に開催されました。TCR社はクロアチア・スロベニアのダイビングクラブのダイバーと一緒に海や海岸の清掃活動を主催しました。この活動にはドイツやハンガリーのダイバー達も参加しました。ダイバー達は港湾周りの海を清掃し、TCR社の社員と地元の人々は海岸や森を清掃しました。約150人もの人々がこのイベントに参加し、参加者は皆ごみが自然や海に悪影響を与えることを身をもって体感しました。

\*TOYOTA CROATIA d.o.o.



## TLH社\* “Run for Children,ハノイ”

このイベントはカナダ大使館とハノイ友好協会が共同して2000年以降毎年開催しています。イベントの目的は貧しい家庭の病気の子供を支援することを地域社会に訴えることです。TLH社は100人のメンバーで今回初参加しました。今年のイベントには5,000人以上もの人々が参加し、約53,000米ドル相当の寄付が集まりました。寄付金はハノイ心臓病院、ハノイ小児病院、ベトナム心臓疾患基金に手渡されました。

\*Toyota Lang Ha Company Limited.



## IMC社\* “交通安全アートコンテスト”

IMCは市民基金と共同で学校の子供達に楽しく交通安全を学んでもらう交通安全アートコンテストを開催しました。100を超える学校から約15,000人の子供達が参加しました。IMC社は1,000人の子供達に絵画用具を

提供するスポンサーも務めました。また子供達が描いた絵の中からIMC社は12作品を選びカレンダーを作成して、様々な会社、学校、NGO等に配布しました。

\*Indus Motor Co., Ltd.





## エネルギー・化学品本部



<http://www.toyoto-tsusho.com/business/energy/>

ファインケミカル部 部長 ● 椿本 光弘

途上国における感染症対策をサポートする事業展開で地球平和と健康づくりに貢献してまいります。

「マラリア対策」「新生児用必須ワクチン」「エイズ対策」は当社感染症対策事業の3つのKFS(Key Factor for Success)で、それぞれの分野において当社の取り組みが利用者の皆様の利益と社会福祉に貢献できるよう、事業化努力を続けてまいります。



## マラリア予防対策資材販売の世界展開

地球温暖化の影響でマラリア、デング熱媒介蚊の生息地域が急拡大しています。従来の殺虫剤散布では効果が限定的であり、環境への影響も心配されていることから、殺虫剤練り込み式もしくは殺虫剤漬式蚊帳での家族単位の予防をWHO(世界保健機関)が推奨しています。現状マラリア予防のワクチンはまだ開発されておられません。予防薬はありますが、妊婦と乳幼児は服用できないため、蚊帳で自らを保護し、夜間蚊に刺されないよう予防するしか手がありません。当社はWHO登録認定蚊帳6商品の内、唯一の日本商品である住友化学(株)Olyset®をア

フリカ諸国中心に住友化学(株)ご指導の元、普及販売活動をしております。普及面ではUNICEF、世銀、世界基金、先進諸国援助により、マラリア予防対策費の蚊帳が年間300億円程度無償配布されており、アフリカの1家庭に1枚普及を目標に展開拡大中です。なお、同時に使用後の回収処理方法(家庭燃料用油化)、BOP商い(低所得層向け商い)についても調査開始しました。アフリカにおきましては、感染症が死亡率1位です。蚊帳の配布とその使用指導により、マラリア罹患率を下げ、アフリカの生活向上に寄与しています。



# 食料本部



## 食の安全管理への取り組み

食の安全の確保を目的に当社独自の積極的な「食の安全管理体制」を構築しています。食料安全推進室を中心に「サプライヤー厳選」「現地サプライヤー管理基準の強

化」「現地及び水際検査の強化」を外部専門機関との提携により実行し、商社ナンバーワンの安全管理体制の構築を目指しています。



### 食料安全管理システム 外部専門機関と業務提携し共同策定

**3つの目的**

- [1] リスクの未然防止
- [2] 有事の最小化
- [3] PDCAサイクルを回す

P : Plan(計画)    C : Check(点検)  
D : Do(実施)    A : Action(行動)

**4つのシステム**

- [1] 事前審査システム
- [2] 3段階チェックシステム
- [3] 緊急対応システム
- [4] 継続的改善システム

**基本的考え方**

従来の日本水際での検査強化から、現地サプライヤーでの管理基準・検査を強化し、輸入時の安全担保を確保する。



食料本部

# 食料資源の安定供給

日本は小麦、トウモロコシ、大豆などの穀物、油糧種子のほとんどを輸入に依存していますが、供給国は米国、南米などに寡占化されつつあります。経済成長とともに中国や東南アジア諸国の需要が高まるにつれ、供給国の生産状況によっては、食料原料の高騰が生じ、食料原料の争奪戦も現実味を帯びてきました。一方で、日本は食の安全・安心が原料まで遡及され、従来型の単純な大量輸入では許されない状況が強まっています。

こうした環境の変化を踏まえ、長年にわたり世界中に築き上げたネットワークを駆使するとともに重要拠点には駐在員を配置して、米国、オーストラリア、南米など生産地の情報を集め、分析し、適時に適地から安定的に供給できる体制を構築してきました。また、食の安心・安全への対応として、栽培・生産、加工、流通、販売の各工程で仕入先、販売先、栽培・生産／加工の方法などの履歴が分かるトレーサビリティへの対応を進めてきております。

■ 穀物資源の安定供給



関東グリーンターミナル(株)



東北グリーンターミナル(株)



東灘トーマンサイロ(株)



中京地区最大となる副原料サイロの増設



東洋グリーンターミナル(株)



## 冷凍加工食品の生産

当社と北海道農協の共同出資で設立いたしましたクレードル食品ではお客様のOEMブランドで調理冷凍食品・冷凍野菜・レトルト缶詰食品・乾燥野菜の4分野の加工食品を生産・販売しております。

お客様のニーズに応えるべく様々な高性能設備を備えるとともにTPSを導入することで生産効率の向上に向けた取り組みを行っております。



### 冷凍食品の生産事業に着手 ～北海道で食品加工会社ナンバーワンを目指す～

豊田通商の関連会社である十勝冷凍食品・クレードル食品は地元の農業団体との連携を深め、地域の特産物を使用した商品開発に取り組んでおります。これからも安心・安全で美味しい冷凍商品をお客様にお届けしていきたいと考えております。

執行役員 ● 林 則宏



## 生活産業・資材本部



<http://www.toyota-tsusho.com/business/consumer/>



生活資材部 部長 ● 松村 洋

“もったいない”という発想が、  
新たな商品を生み出しました!

エアバッグは形状が複雑なため、裁断後にたくさんの端材が残り、処理に困っていました。この端材をもったいないと感じた弊部門は、ペットボトルのリサイクルと同じ発想で再利用を検討。結果としてリサイクルナイロンカーペットという新たな商品をうみだしました。今後も、日本人のDNA “もったいない”をもっと世界に広めていきます。

## 自動車のエアバッグ製造端材を再利用した リサイクルナイロンカーペットを企画・開発

「リサイクルナイロンカーペット」とはパイル糸（繊維部分）に100%リサイクルナイロンを使用したオフィス用タイルカーペットです。

世界で初めてエアバッグ製造時の発生端材よりカーペット用糸の製造と商品化に成功しました。裏面のバックング材にもリサイクル素材を使用したエコマーク認定商品※となっております。リサイクル品を使用していない同規格のタイルカーペットに比べ約33%のCO<sub>2</sub>削減率を実現しました。

近年のエアバッグ市場のグローバルレベルでの拡大により、エアバッグ工場での端材の発生は地球規模で増加する見込みで、使用済み自動車からのエアバッグ廃材の発生も引き続き増加傾向にあります。

自動車リサイクル法の施行によるリサイクルニーズの高まりもあり、当社としては、リサイクル技術革新に努めてコストダウンをすると共に同製品の普及を実現させていきます。並行してポストコンシューマ起点での製造技術と循環システムの構築にも注力していく方針です。

※エコマーク認定商品

再生材料（ポストインダストリアル：工場端材）が50%使用されていること。あるいは再生材料（ポストコンシューマ：市中廃材）が製品重量の25%以上使用されていること。



# エアバッグ端材リサイクルナイロンカーペット

## 商品の特徴

- パイル部分に100%リサイクルナイロンを使用したオフィス用タイルカーペット
- 世界で初めてエアバッグ製造時の端材よりカーペット用糸の製造と商品化に成功
- バックリング材にもリサイクル素材を使用したエコカーペット

## 取り組み背景

- |                        |                             |
|------------------------|-----------------------------|
| ●エアバッグ市場の拡大による端材・廃材の増加 | ➡ 工場での端材発生量増加               |
|                        | ➡ 使用済み自動車からのエアバッグ大量発生       |
| ●リサイクルニーズの高まり          | ➡ 自動車リサイクル法の施行              |
| ●自動車業界全体でのリサイクル推進の取り組み | ➡ 技術確立に留まらずリサイクル商品を自ら積極的に使用 |

## 再生ナイロンカーペット事業概略



## 活動の重点領域は

# 「教育・環境・福祉」

豊田通商はCSRへの取り組みの一環として社会貢献活動を推進するにあたり、その方針を次の通り定めています。

## 社会貢献活動基本方針

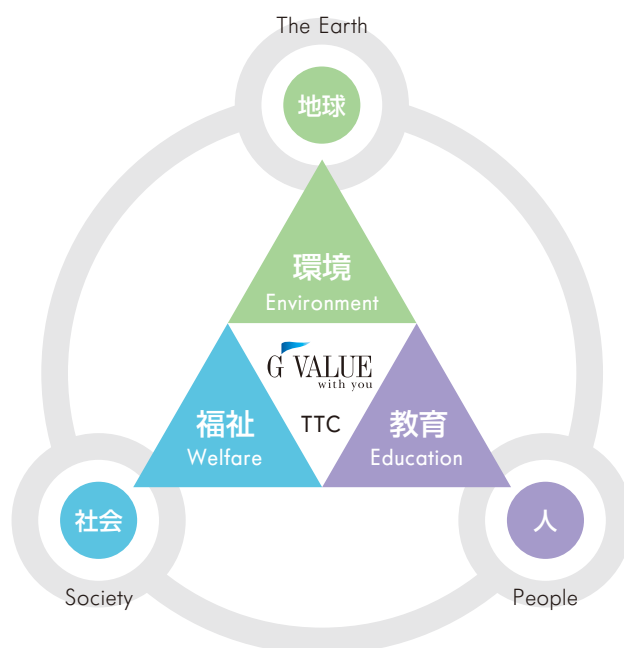
豊田通商は『良き企業市民』として『人・社会・地球との共存共栄』を目指し、グローバルな社会貢献活動を通して、『豊かな社会づくり』に貢献します。

## 活動方針

豊田通商は企業理念に照らして、人（教育）・地球（環境）・社会（福祉）を重点テーマとして位置づけ、豊かな社会づくり実現に貢献しうるグローバルな社会貢献活動に積極的に取り組みます。

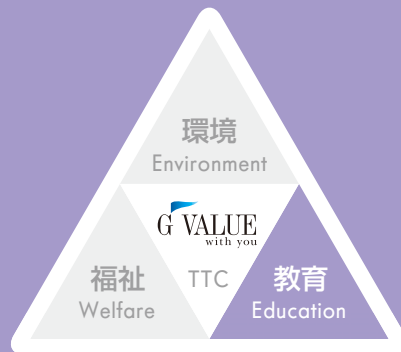
また具体的な活動においては『企業による・役職員による・事業活動による』3つのアプローチをバランスよく選

択し、実質的で効果的な活動を推進します。さらに役職員一人ひとりの社会貢献活動を推進・支援するとともに、企業という単位でこそ取り組める自主的な活動を推進することで企業の社会的責任に応え、『豊かな社会づくり』の実現を目指します。



# 人を育てる心を育む

地球の未来を担う子どもたちは私たちの宝物。  
彼らが「夢」や「希望」をもって成長していけるよう、スポーツ、勉強、文化、あらゆる方面から支援を行っています。  
世界中の子どもたちの目がキラキラ輝く明日を願って。



## 絵本を届ける運動

### 身近でできる癒しのボランティア 「アジアの子どもたちに絵本を贈ろう！」

社団法人シャンティ国際ボランティア会(SVA)が企画する「絵本を届ける運動」に、当社は2007年から参加しています。これは、日本の絵本にアジアの国々の現地語に訳した翻訳シールを貼り、現地の子どもの識字率向上に役立ててもらおうというものです。2009年度は、東京・名古屋・大阪・広島から、総勢190名の社員が参加し、カンボジアとアフガニスタンの子どもたちへ、合計271冊の絵本を現地に贈ることができました。「楽しかった」「心が癒された」といった感想も多く、子どもと一緒に楽しめるボランティアとしても社員の間でも大変好評です。



## バスケットボールクリニック



JBL2※に所属している当社のバスケットボール部「ファイティングイーグルス」は、小中学生を対象に「バスケットボールクリニック」を開催しています。

2009年度は19回で述べ1,030名に指導を行い、地域交流とともに、バスケットボールの技術向上に寄与しています。

また、東海地区のチームを招待する「豊通カップ」も4回開催。名古屋市主催イベント「なごやマイ・スポーツフェスティバル」へも毎年協力し、大勢の子どもたちに喜ばれています。

※JBL2 : JAPAN BASKETBALL LEAGUE 2

## カザフスタン文化と日本文化の国際交流

豊田通商Almaty事務所では、将来の国を支える若者(小学生から大学生等)や各種アカデミーの教授人との会話、学校訪問を実施して、広く日本の現状を伝えるよう努めています。

一方、カザフスタンの方々のみならず、カザフスタンで働く各国の方々やその家族の方々にまで交流を広げ、カザフから日本を広める様、心がけています。

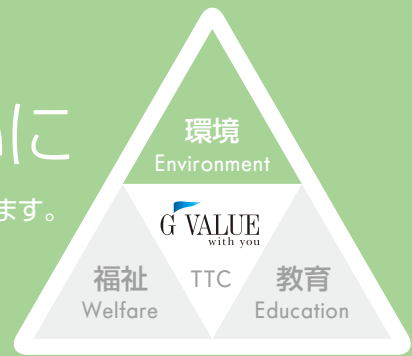
とかく、日本人社会(日本人同士)で集まりがちですが、カザフ(Almaty)では、日本人が少ないこともあり、カザフ人に留まらず、各国の多くの方々に日本の文化風習を広めると共に、カザフの風習や諸外国の風習に大人も子供も触れる機会を提供しています。





# みんなの地球、もっときれいに

地球は今、環境破壊や地球温暖化の影響でその姿が徐々に変化しつつあります。美しい地球を守るためには、企業人、地球人としてそこで暮らす一人ひとりの意識が大切。「私たちの地球だからこそ、私たちがきれいに」。まずは身近なところから取り組んでいきます。



## 『富士山の森づくり』植林ボランティア活動

### 植林プロジェクトついに始動！ 美しい森づくりを目指して



当社は、(財)オイスカが山梨県と協働で展開する『富士山の森づくり』活動に、2008年度より参画しており、2008年度の“下草刈り活動”に引きつづき、2009年度は5月に初の“植林活動”を行いました。

当日は、東京・名古屋・大阪・刈谷・豊田から約100名の豊田通商および関連会社の社員・家族が参加し、苗木1000本を植林することができました。天候にも恵まれ、富士山標高約1600mの気持ちのよい空気を吸いながら、参加者同士だけではなく地域の人々との交流も深めながら活動ができました。

参加者の中には、「今回、自分の勤めている会社がこのような活動をしていると知ることができ良かった。」「世界的に厳しい経済状況だが、こういう活動を続けていくことは大切なことだと思う。」などと話してくれました。当社では今後も、継続的にこの『富士山の森づくり』活動に取り組んでまいります。



## タイのウミガメ放流

環境と教育を中心に、社会貢献活動に力を入れているトヨタツウショウタイランド(TTTC)。2009年度の取り組みでは、近年、急激に減少しつつあるウミガメを保護するために、ウミガメ保護センターに寄付・協力をしてウミガメの放流活動をいたしました。また他にも、「サンゴ礁の保全」・「マングローブでの植林」などといった環境活動や、「子どもたちへ奨学金や物資の寄付をする」教育活動など、幅広い活動を続けております。



## 車いすツインバスケット

### スポーツを通して福祉に関心をもってほしい



四肢麻痺の重度障がい者の方々の団体競技である「車いすツインバスケットボール」。この競技は、今まで家庭や施設に閉じこもりがちだった人々への社会復帰や体力・精神力の維持向上に大いに役立っています。当社はこの競技を広めるため、大会の協賛を行うほか、社員から募ったボランティアが大会でのタイヤ拭きや放送など運営をサポート。また、小学校で実際に子どもたちに車いすバスケットを体験してもらう福祉実践教室を開催しています。

# 「まあるく豊かな社会」をつくる

地球に暮らす人々はすべて平等。お年寄りや身障者、経済的に貧しい人たちも、みんなが安心して生活できる世の中が必要不可欠です。寄付金や技術指導などの活動を通して、笑顔があふれる「まあるい社会」を目指します。



## 非電化地域でのエネルギー供給プロジェクトへの支援

### 「バイオディーゼル燃料を利用した電力供給」 アフリカ・ベナンにおける 貧困層自立支援プロジェクト

当社は、2008年度より、「NPO法人プラネットファイナンス」が実施するマイクロファイナンスを活用した貧困層自立支援プロジェクトへの支援を行っております。2009年度は、アフリカ・ベナンの非電化地域における電力供給案件への支援を行いました。このプロジェクトは、当該地域において、原料となるジャトロファを栽培し、バイオディーゼル燃料を利用した発電を行い、さらにその電力利用者が小規模事業を立ち上げ経済的に自立できるようマイクロファイナンスの仕組みを提供するものです。同地域に200件の小規模事業を立ち上げることを目標としており、これにより特に女性とその子供たちの生活改善に繋げようとするものです。当社は本プロジェクトにおけるトレーニングと技術指導のための一部資金を拠出しております。



## TABLE FOR TWO

### 子どもの笑顔と社員の健康管理が一度に実現 新しいカタチの社会貢献

毎日のランチで社会貢献と健康管理が一緒にできる制度「TABLE FOR TWO (以下TFT)」ってご存知ですか?塩分3g以下でカロリー700kcal以下の「ヘルシー弁当」を対象に、この代金のうちの10円と、会社からの寄付10円の計20円がTFTを通じて開発途上国の学校給食の費用として寄付される仕組みです。毎日の昼食で社会貢献ができる上に、寄付した本人も健康的な食生活ができて一石二鳥。今は名古屋本社だけの取り組みですが、今後は東京本社でも実施していく予定です。

#### TABLE FOR TWO

開発途上国が栄養不足にある一方、先進国は肥満・生活習慣病になる「食の不均衡」を解決するために設立されたNPO法人。開発途上国での学校給食の配布と先進国での健康的な食事の普及促進を行っています。



# TOYOTA TSUSHO CORPORATION CSR REPORT 2010

[www.toyota-tsusho.com](http://www.toyota-tsusho.com)



## 社会性報告

Page.26 ■ 安全への取り組み

Page.31 ■ 人事面への取り組み

## 環境報告

Page.35 ■ 環境への取り組み

## コーポレート・ガバナンス

Page.41 ■ コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

Page.43 ■ ステークホルダーとのコミュニケーション



# 安全への取り組み



## Message

### 安全文化の構築にむけて

安全確保は、事業継続の大前提であります。豊田通商は、本体・関連会社・仕入先との三位一体となった、安全管理を進めております。

2009年度は、重大災害の発生はありませんでしたが、2008年8月に発令された「安全非常事態宣言」を受け、豊通グループ全社員の安全意識の徹底と安全管理のしくみの構築を継続しております。

安全会議を通じた事故・災害情報の共有化・各営業本部のゼロ災メンバー安全大会・グループ会社との安全衛生委員会を開催し、豊通・グループ全社員への安全意識の徹底を図るとともに、安全体感道場・安全DVDによる人材教育を実施し、危険を先取りできる人材育成に努めております。

また、工場安全診断・国内外生産拠点におけるリスクアセスメントを実施し、経営者の意識改革・危険を排除した設備づくりに取り組み、「安全マネジメント」の構築を進めております。

さらに、新規事業案作成時より、工事・設備の安全管理体

制・方法の確認を行い、事業開発時点からの安全確保に取り組んでおります。

これら安全活動を通し、豊田通商グループ事業の「災害ゼロ」・災害未然防止が自発的にできる企業風土づくりに取り組む所存です。

今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。



統括安全衛生責任者  
常務取締役  
白井 琢三

## 【理念】

豊田通商グループ会社は、企業倫理の観点から社員の安全と健康は、企業経営の基盤と認識し業務活動と一体化された安全で働きやすい職場環境を確保するよう安全衛生活動を実施する。

## 豊田通商グループ安全衛生方針

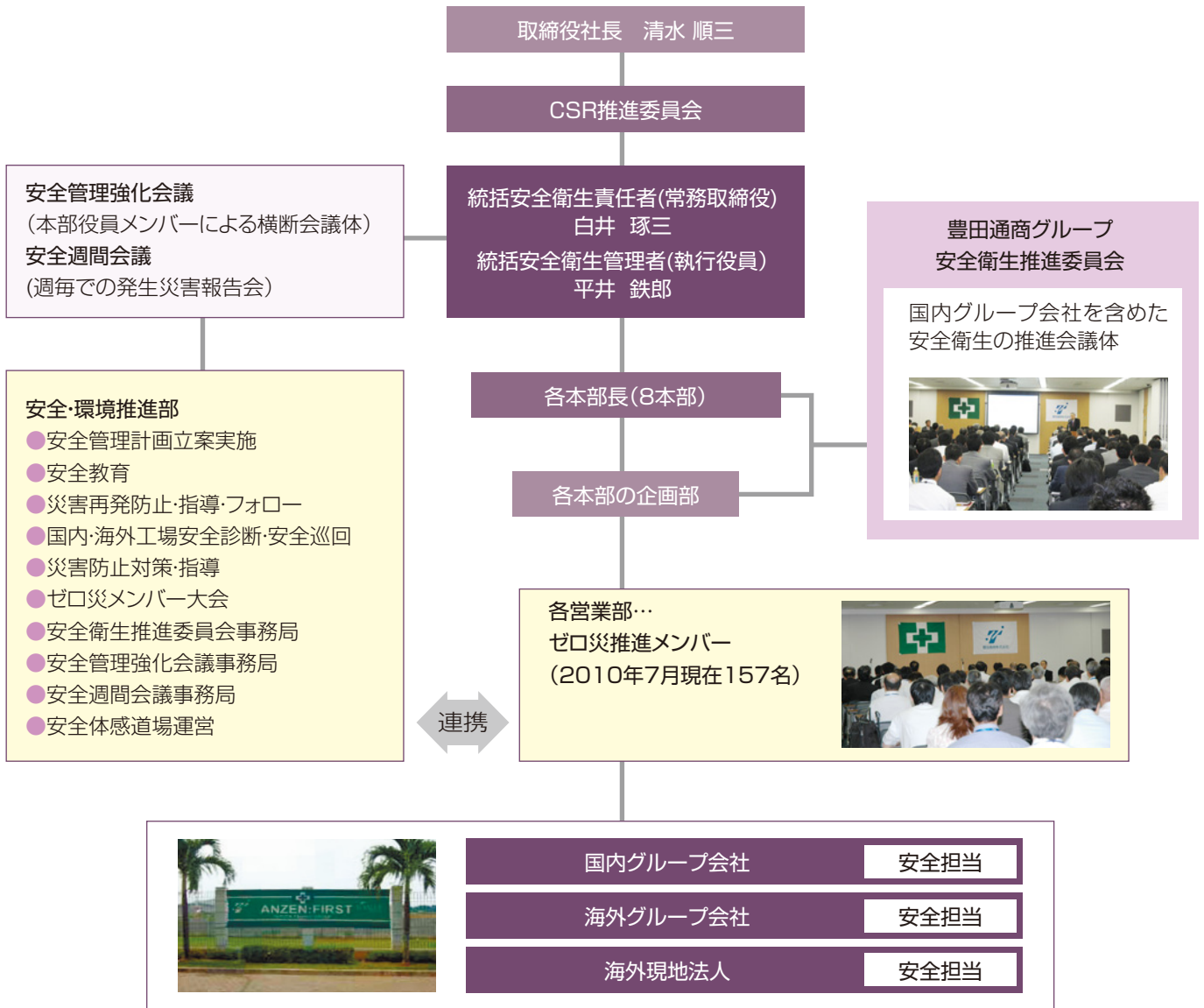
- 1 安全と健康の確保を図るには良好なコミュニケーションが必要と認識し、トップは社員との協議を尊重する。
- 2 安全衛生関係法令、客先構内作業業務要領等を尊重するとともに、必要な自主基準を設け安全衛生管理のレベルの向上を図る。
- 3 労働安全衛生マネジメントシステムを利用し、継続的な改善ならびに維持に努め安全衛生水準の向上を目指す。
- 4 グループ全社的な安全衛生活動の推進のため、組織体制の整備、責任所在の明確化を図る。
- 5 快適かつ健康的な職場の形成を進めるため、全社員に対し安全衛生確保に必要なかつ十分な教育・訓練を実施する。

2005年7月1日  
取締役社長 清水 順三



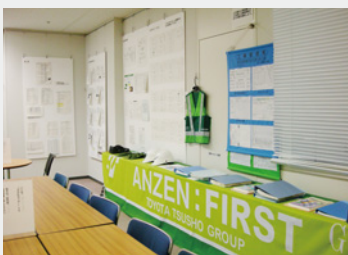
## 経営トップ統括による取り組みの定着

各営業本部トップによる統括のもと、ゼロ災メンバーを主体に、主管する業務及びグループ会社の安全管理に取り組んでおります。



### ゼロ災ルーム

安全管理への取り組み・教育内容を展示



### 安全体感道場

危険の実地体験



### OSH-NET

電子掲示板での安全衛生情報公開





## 豊田通商グループ安全衛生推進委員会活動による取り組み

### 活動方針

- 安全文化の構築
- リスクアセスメントの実施
- 適切作業指示と即時KYMの定着化の推進

#### 豊田通商

- 統括安全衛生責任者(常務取締役)
- 統括安全衛生管理者(安全・環境推進部担当役員)

#### 豊田通商

- 各本部長
- リスクマネジメント部長
- 各本部企画部長
- 関連事業部長
- 人事部長
- 安全・環境推進部長(事務局)

#### 豊田通商グループ安全推進委員会

- 安全衛生管理者(グループ会社代表取締役)
- 対象会社:59社



### 2009年度の取り組み活動

#### ①安全文化の構築

- トップの「安全方針」の掲示と宣言
- トップが心に響くリーダーシップを発揮し、全員参加の安全活動
- ガバナンスの強化:  
安全の門・姿見ミラーの設置
- 安全対策知識の向上  
危険予知能力の向上

#### ②リスクアセスメントの実施

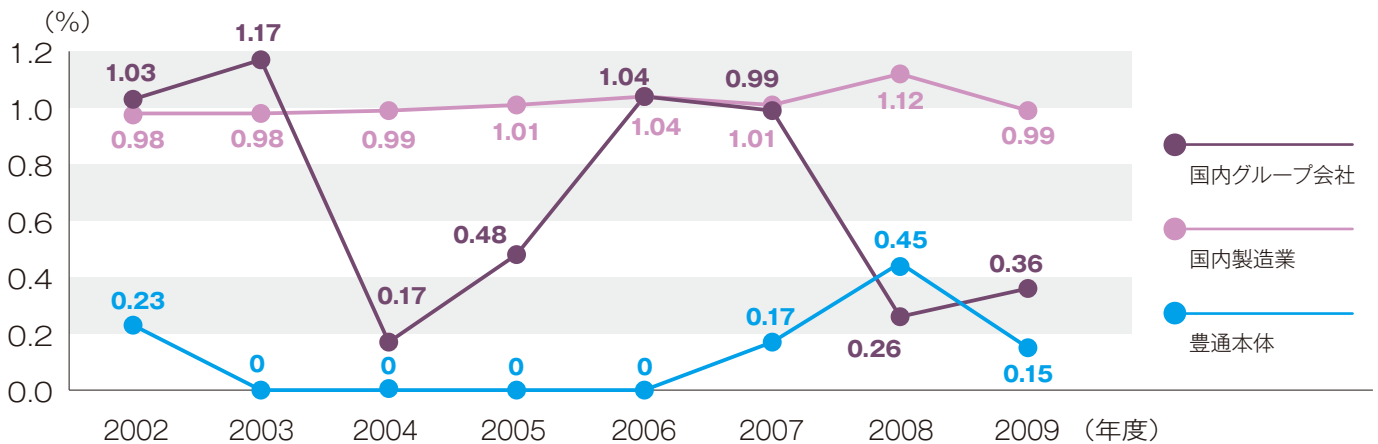
- リスクアセスメント手法の標準化
- 標準化されたリスクアセスメント手法の国内外生産現場への展開
- リスクアセスメントの結果に基づき策定された本質安全対策の実施

#### ③適切作業指示と即時KYMの定着化

- 関係者間の連絡調整を緊密に行う
- 現場管理監督者の能力向上
- 想定される『異常処置作業』に対する、安全の急所を入れた『作業手順書』の整備

### 休業度数率

社内歩行災害が増え、階段歩行の注意を喚起しております。



休業度数率：休業災害件数 / 延労働時間数 × 1,000,000時間





## 安全管理活動

### ● 国内外グループ会社 安全管理の取り組み

国内外事業拠点に対し、工場巡視・工場診断・リスクアセスメントを実施し、それら評価結果より課題抽出・対策実施を進め、安全を先取りする体質への変換を進めています。



### ● 投資事業における 安全管理の取り組み

経営責任を負う国内外の事業体の新設工事・増設工事について、発注者としての「安全配慮義務」を果たし、無事故・無災害で現場工事を推進することを目的に、安全管理体制や安全対策の措置がとられているかを投資事業の計画段階で事前審査を行い、安全確保を行っております。



### ● 「安全衛生協力会」活動について

客先での工事や納品業務においては関係仕入先・委託先のご協力をいただき安全協力会を組織し災害防止に取り組んでおります。安全大会・研修会を通し、安全管理の実践・安全意識の向上に取り組んでおります。



## 安全教育

現場の安全管理は「人づくり」が原点としてとらえ、自社内で安全教育講師を育成し、豊田通商本体・グループ社員のみならず、仕入先へも対象を拡げ、定期的に安全教育を実施しています。各営業本部のゼロ災メンバーに対しては、「安全管理者選任時研修」合格を必須として安全に対する意識向上に努めています。また、それぞれの職場で役に立つよう、工事・生産・納品業務の安全管理に関し国内外スタッフへの教育を継続しております。

2009年度も、グループ会社の現場を事例に安全教育DVDを作成し、国内外の事業体に配布、安全確保の取り組みを世界規模に拡大しております。

また、「安全体感道場」では、本体・グループ会社社員に対し、作業現場での危険体験を通し、安全に対する理解を深めております。

### ■ 教育内容と対象

	新入社員	中堅社員	管理職	経営者
教育内容	新入社員教育	安全管理者選任時研修		トップ層研修
		安全衛生責任者研修		
		職長教育		
		海外赴任時研修		
		工事責任者研修		
		作業責任者研修		
		高所作業教育 感電防止教育		

### ■ 社内有資格講師

安全管理者選任時研修	3名
RSTトレーナー	10名
全豊田作業責任者専門講師	12名





## 人材育成

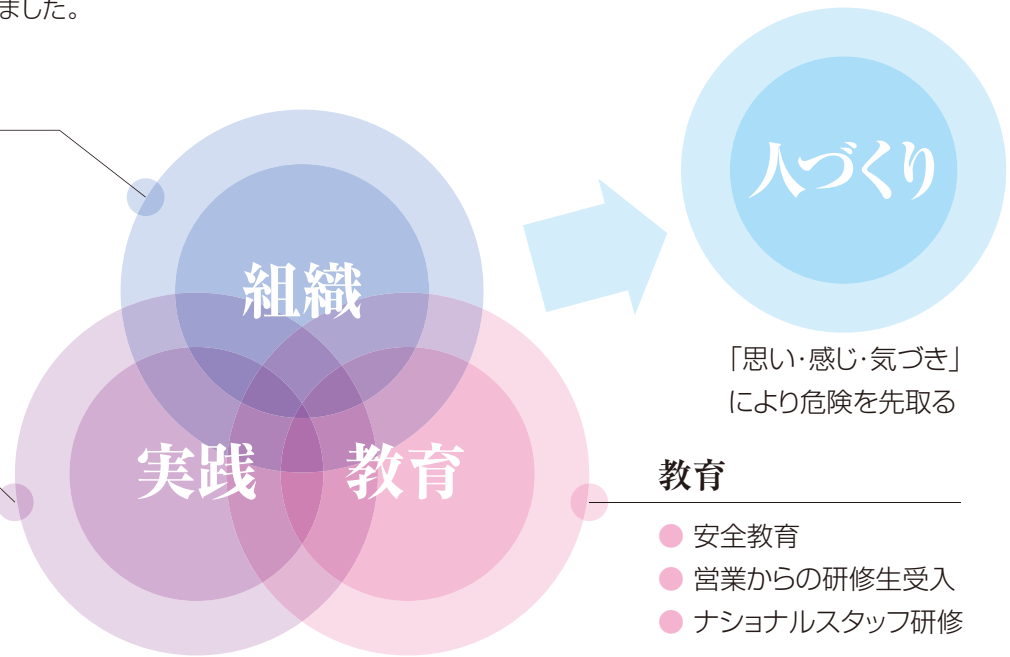
安全文化の構築には、国内・海外拠点の安全活動推進できる人材の育成が最重要課題と位置づけ、組織・教育・実践を通し、“人づくり”に取り組んでまいりました。

### 組織

- 安全・環境推進部
- 営業本部・部
- ゼロ災メンバー

### 実践

- リスクアセスメント
- 国内・海外安全診断
- 安全パトロール



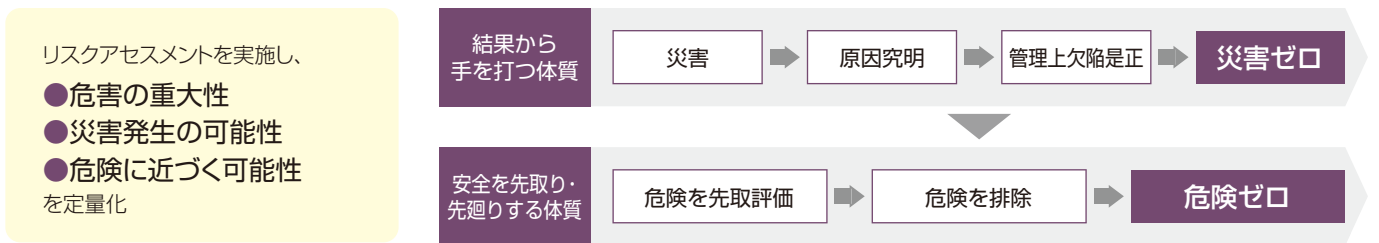
### 教育

- 安全教育
- 営業からの研修生受入
- ナショナルスタッフ研修

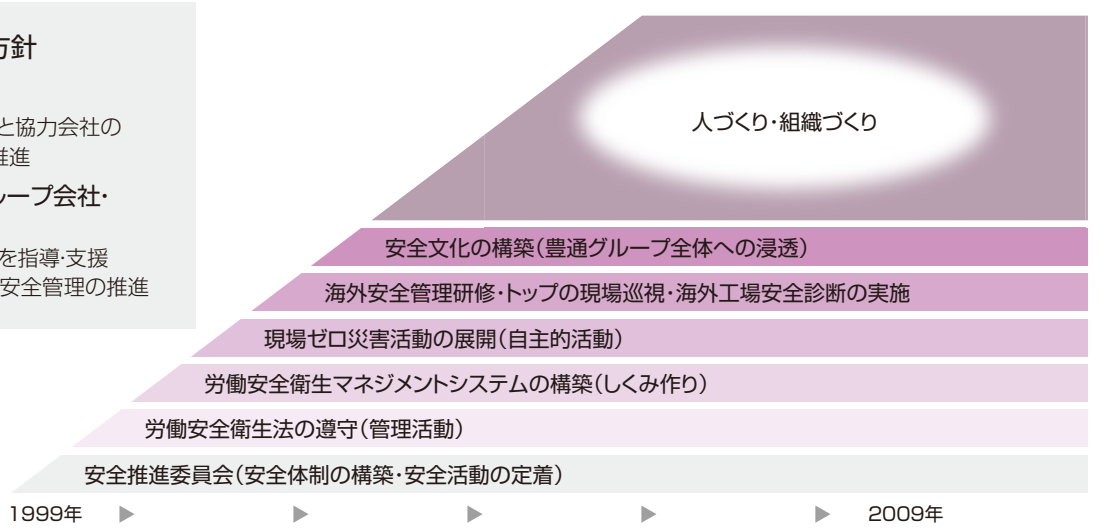
## 安全推進活動と今後の取り組み

当社は1980年4月に安全管理室を設置して以来、災害の未然防止活動を継続してまいりました。環境安全推進部を経て2007年7月、安全推進部と組織を変えて安全文化の構築をめざし活動を行っております。

今後も“災害ゼロ”・“危険ゼロ”の職場を築くため、リスクアセスメントの実施と災害の未然防止活動に取り組んでまいります。



- ### 2010年度活動方針
- 安全機能の強化**
    - 国内外グループ会社と協力会社の安全マネジメントの推進
  - 安全文化の構築とグループ会社・協力会社への浸透**
    - 安全プロ人材の育成を指導・支援
    - CSRを重視した労働安全管理の推進



## 人事面への取り組み

人事面における取り組みはCSR活動の一環でもあり、これを推進することによって、企業理念の実現につなげていかなければならないと考えています。

今後は、ますます社員の多様化が進むことを踏まえ、人事制度などの諸施策の改善・浸透、および職場環境の改善を図っていきます。

### 人事面における社会的責任とは

豊田通商の社会的責任は、企業理念および人事理念を実現することです。そのために、人事面においては、社員一人ひとりが『いきいき』と働けるように、活性化された働き甲斐のある職場づくりを目指し、人事施策を展開しています。

### 【人事理念】

豊田通商では、経営戦略の実現を目指し、過去や固定観念にとらわれることなく、現地・現物・現実に立脚のうえ、全体最適の視点で共鳴・協働し、よりよい未来に向けて進化をリードする社員を採用し、育成し、処遇します。

### 人事においてCSRを推進するポイント

#### Point.1 社員がいきいきと働くことができる職場環境づくり

会社と社員がともに持続的に成長できるよう、社員の働き甲斐、豊かさを実現するための制度や、職場環境の整備を進めていく必要があり、さまざまな施策を構築しています。

#### Point.2 恒常的・自律的に改革・改善を促進する仕組みづくり

社員自らが考え、また、たゆまない改革・改善意欲をもって、自発的に行動を起こせるようにすることが会社の責務と捉えています。その行動を促す仕組みや制度づくりを行っています。

#### Point.3 経営環境の変化に対して柔軟・俊敏、誠実に対応できる人材の育成

経営を取り巻く環境はめまぐるしく変化していきます。その中にあっても、事業機能の強化に努め、誠実な事業活動を継続的に推進することのできる人材を育成します。

#### Point.4 組織としての全体最適を目指したチームワークの促進

個を尊重するとともに、個で行うことの限界も認識し、全体最適を目指すことができる組織作りを行っています。全体最適を目指すためには、チームワークを促進していく必要がありますが、そのためには、お互いを尊重し合うことのできる企業文化・風土であること、タテ・ヨコ・ナナメのコミュニケーションが十分にとれていることが重要と考え、このような企業文化・風土を醸成する仕組みづくりを行っています。

### 人権

豊田通商では各種人事施策を実施するうえで人権の視点を重視しており、国籍や性別・年齢・障がい・宗教などによって、採用や評価における差別が生じないように留意しています。また、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントが行われることのないよう、社員教育を徹底すると同時に、制度や仕組みの整備も行ってきました。

2006年4月にはダイバーシティ推進室を人事部内に設置し、

誰もが十分に力を発揮できる組織を目指し、社員の意識向上のためさまざまな活動をしています。

グローバルな事業展開とともに、世界中のさまざまな地域で拠点の拡大が行われており、各国の文化や人々の暮らしを尊重し事業活動を行っていくことが求められています。

ダイバーシティマインドの全社浸透のため、意識・制度の両面からアプローチを行っていきます。

#### セクハラ・人権セミナー

セクハラ・パワハラを許さない職場環境を維持するためだけでなく、国籍や性別・年齢・障がい・宗教などによる差別を行わず相互に尊重しあうことの大切さを再確認するための社員研修を行っています。毎年開催する新入社員向けの研修に加え、関連企業にも対象を拡大し実施しています。





## 人事制度

### ● 全体最適

採用から異動配置、人事考課、教育など、すべての人事制度において“全体最適”視点を重視するという考え方が、企業文化・風土として浸透しています。これは、当社が組織として存在し、ステークホルダーへより大きな付加価値を提供するためには、個人のパフォーマンス中心でなく複数の組織や人材が協力し合うことで、より効果的・安定的に成果を創出できるという経験則に基づいています。全体最適重視の姿勢は、これからも当社の基本的な価値観として共有していきたいと考えています。

### ● 人事制度の特徴

豊田通商では、性別・年齢・国籍などにとらわれず成果に基づいた処遇を行っています。透明性・納得性の高い「評価制度」、フレキシブルな異動配置や人材育成にマッチした能力ベースの「等級制度」、貢献度に応じた「報酬制度」を軸に新しい制度を2006年4月から導入しました。このような新制度により経営理念・ビジョンの実現と、社員のさらなるモチベーションアップを促進しています。

### ● チャレンジローテーション／オープンエントリー

豊田通商では、異動に関する標題の制度を導入しています。「チャレンジローテーション」は同一業務担当年数が5年以上の社員を対象とした制度で、異動希望先での具体的なプランを提示することで、通常の異動希望申請より優先した異動を行うものです。「オープンエントリー」はいわゆる社内公募制度のことで、異動が確定するまで応募の秘密を厳守することで、部署のニーズと応募者の希望のマッチングが可能になります。これらの制度は、全体最適での人材活用と育成の視点に基づいて実施されています。

### ● 表彰制度

企業ビジョンの実現に向けて努力した国内外の組織や個人を毎年表彰しています。その表彰式では表彰する役員と社員が一同に会し、役職員全員で功績を称えます。表彰の対象は業務上の実績だけにとどまらず、資格取得賞、社会貢献賞など幅広い賞を設けています。

### ● 採用

豊田通商では性別、年齢、国籍、障がい等は一切関係なく、個々人の能力、技能、志向性や適性が豊田通商の求める人材像に合致しているかどうか公正に判断して採用選考を実施しています。採用担当に対しては人権教育を行い、差別や偏見のない採用活動に努めています。

## 人材育成

### ● 人材育成の考え方

豊田通商では「現地・現物・現実」「商魂」「チームパワー」をキーワードとする豊田通商グループウェイに則り、これを具現化できる人材の育成を目的にさまざまな研修を実施しています。研修を通じて個々人のレベルアップを図ると同時に、情報を共有し、全体最適の視点で協働することのできる人材を育てることに力を入れています。

主な研修としては、新事業創造の起業家精神や事業・経営戦略マインドを育てる「イノベーションリーダー育成塾」、全体最適の視点で問題意識の共有化を図るための階層別研修などが挙げられます。

また、若手を対象として「実務知識講座」やビジネススキルやフレームワークを学ぶ各種研修を実施する一方、社員の自己啓発の支援として、通信教育や社外スクールの受講料補助を行うなど、社員のニーズに応じたさまざまな施策を実施しています。

さらに、こうした研修や自己啓発支援施策を豊田通商の関連企業にも展開し、豊田通商グループ全体としての人材育成の質の向上にも努めています。

### ● 海外語学研修生制度

豊田通商では業務ニーズに対応した人材育成の一環として、海外語学研修生制度を設けています。

海外の大学や語学教育機関での1年間の語学学習の後、海外店や現地法人において駐在員の指導の下、約3ヵ月間の実務研修を行っており、語学のみならず文化・風土や現地の商習慣にも触れることのできるプログラムとしています。海外要員育成のための有効な制度であり、社員のキャリア開発とローテーション促進の一端を担っています。

#### ■ 2009年度の派遣実績地

- ブエノスアイレス(アルゼンチン)
- サンクトペテルブルク(ロシア)
- ポルトアレグレ(ブラジル)
- 北京(中国)

## 多様な人材による価値創造

2006年4月にスタートしたダイバーシティ推進室では、『性別や年齢に関わらず、誰もが力を発揮できる組織となり新たな価値創造を目指す』をコンセプトとし、社員のワークライフバランス(仕事と家庭の両立)支援、女性の活躍支援、障がい者の活躍支援を中心に活動をしています。

### ● 女性活躍推進

2009年度も引き続き女性活躍推進のために業務職の各階層にわたる集合研修や、9ヶ月に及ぶ長期実践型研修である「いきキャリア研修」を実施して参りました。そのほかにも、中部ダイバーシティNet(注1)開催の異業種合同研修への参加、東京における異業種交流の実施など、業種を超えた女性のネットワークづくりを支援しています。

当社は今後とも、女性社員が各自それぞれにキャリア形成を考えていけるよう、研修等を通じて女性社員への働きかけを行ってまいります。

また本年度はこれらの活動が評価され、名古屋市の女性活躍推進企業表彰において最優秀賞を受賞いたしました。



#### (注1)中部ダイバーシティNet

中部地域の企業が連携し、ダイバーシティ推進に関する情報やベストプラクティスを共有することにより、人材の多様性を認め尊重する企業風土を醸成することを目的に設立された任意団体で、現在51社の企業・団体が参加しています。2007年より活動を開始し、異業種合同研修の開催などを行っております。豊田通商は幹事企業の1社として積極的に協力しています。

### ● 両立支援施策

育児休業制度や、育児のための短時間勤務など各種両立支援関連制度の充実により、育児休業取得者は増加中です。(2009年度までの累計育児休業取得者:109名)また、男性の育児休業取得も2007年より実績があり(2009年度までの男性育児休業取得者:累計4名)、引き続き取得を促進しております。また、家族参加型の会社紹介イベントである「ようこそ豊通」も2004年より開催しており、2010年に第五回目の開催を予定しており、子育て支援にも積極的に取り組んでいます。



くろみんマーク(厚生労働省より)



名古屋市子育て支援企業認定マーク



愛知県ファミリー・フレンドリー・マーク

## 健康管理

### ● タイムマネジメント

豊田通商は、社員が心身ともに健康で働くことができるよう、社員の健康管理に努めています。

勤務管理システムを導入して全社員の勤務時間を把握することにより、労働時間が長時間に及んでいる社員に対しては、産業医との面談を義務付け、健康管理・健康維持への啓発を行っています。また、全社的にフレックスタイム制度を導入することにより、労働時間の柔軟化をすすめています。

### ● 定期検診・メンタルヘルス対応

全社員を対象に年一回の健康診断、30歳以上の社員の成人病検診、海外赴任社員の赴任前後検診の実施も行っていきます。当社ではこうした社員の健康管理について労働組合と協調、連動して積極的に取り組んでいます。

また、昨今増加傾向にあるといわれているメンタル疾患への予防策として、毎月、職場でのストレス影響度をチェックするため、ITを活用したストレスチェックを全社員に実施するほか、改善策などの情報提供や相談窓口の設置を行っています。

## グローバル人事について

当社の海外事業の比率は年々高まっており、海外の従業員数も連結ベースで20,000人を超える様になりました。現在この状況に応じて、グローバルな企業理念・価値観・目標の共有、海外事業体の経営を担う人材の育成、全従業員が生き生きと働ける職場づくりを目指した人事制度整備を進めております。

まず、全世界の職員の様々な価値観を尊重することを基本姿勢とした上で、当社のバリューである豊田通商グループウェイとVISION2015の共有を図り、それぞれが豊田通商グループの一員であることの意識を要請しています。主な海外事業体に関しては、人事制度のベースとなる部分の統一や、人材の選抜育成などを進めています。特に幹部人材に関しては、2007年よりLDP(リーダーシップ・ディベロップメント・プログラム)と称

した選抜教育を実施、より高度な経営人材の育成を始め、グローバルに優秀人材の確保と要請に努めております。また、本社職員に対しても、異文化マネジメント、事業体経営教育、コンプライアンス、などの研修を実施、増加する海外での事業体経営への対応を強化しております。

人事部では、これらのグローバル人事を実行するために、本社に英語、中国語に対応できる体制を持ち、海外にも7人の駐在員を派遣、主要24カ国の現地の人事担当者とのネットワークを強化しながら、グローバルな人事をすすめています。また、2005年以降、これまでに6名の海外現地法人の人事担当者を本社人事にて半年から1年の出向受入を実施し相互理解の浸透を図っています。



人事担当者研修



LDP(リーダーシップ・ディベロップメント・プログラム)研修

### ■ グローバルな人材との協働



China

**チームパワーで、より良い  
職場環境づくりを推進します。**

豊田通商(広州)有限公司  
管理部 人事主管

凌詠華 さん



半年間の日本本社研修で、現地の日常業務から離れ、グローバル視点で本社の人事実務を体験しました。豊田通商グループウェイに基づきグローバルに共有できる人事制度を展開することの重要性を理解出来ました。今後の現地業務に反映出来るように積極的に取り組みたいと考えています。

海外人事チームでの実務研修に加えて、国内人事部各チームよりも様々な情報及び経験を共有していただきました。これらの経験と知識により、現地の潜在問題を見極めて、改善案を策定できるようになったと思います。

本社人事制度の学習を通して、会社において、人的資源をよく把握し、各人の強みを発揮できる場所を作って、適材適所に人員を配置することが大切だということがわかるようになりました。人事パーソンとして、この使命を果たすため、引き続き重要な役割を担っていきたいと思います。

仕事以外では、幸いなことに、クリスマス・パーティなどいろいろな全社イベントやサークル活動に参加することができました。社員が自主的に企画・運営して、職場全体で応援することに非常に感動しました。

短い数ヶ月間でしたが、仕事上も、生活上もチームのパワーということを深く感じられました。

## 危機管理

国内外の社員および家族の安全と健康を守るため、さまざまな施策に取り組んでいます。

特に生活環境が異なる海外への派遣員およびその家族に対しては、赴任前にセミナーを実施し、身の安全の確保、精神衛生を含めた健康管理の重要性についての理解浸透を図っています。赴任後は、安全情報の配信、健康・医療関連情報の提供を通して、相互の情報交換や現地状況の把握に努めています。

また、有事の際には即時に対策本部を設置し、緊急医療サービス会社との連携により、社員の安全の確保が迅速に行なえるよう体制を整えています。



## 環境への取り組み

豊田通商グループは環境への取り組みが人・社会・地球との共存共栄を実現する上で必要不可欠と認識しております。この認識のもと、職員一人ひとりが環境方針に則り、自主的かつ積極的に取り組んでおります。

### 豊田通商グループ環境方針

- 1 よき企業市民として環境保全、省エネ、リサイクル等に努め、地球環境に配慮した事業活動を推進すると共に、環境汚染の予防に取り組む
- 2 取引先各社、関係会社と共に豊田通商グループが一体となり、廃棄物の有効利用、資源保護関連等環境関連ビジネスを積極的に推進し、循環型経済社会の実現に寄与する
- 3 事業活動にあたって環境関連法規、業界規準等、当社が同意するその他の要求事項を遵守する
- 4 環境マネジメントシステムの構築により環境保全活動を実施し、見直し、創造性を発揮する事により継続的改善を目指す
- 5 環境教育を通じて、環境方針を全役職員に周知徹底する事により環境に関する意識の向上を図る

#### Message

### 地球環境への貢献

当社グループは豊田通商を中心とした「商社」グループであり、トヨタ自動車を中心とするトヨタグループのモノづくり精神を原動力として成長する『モノづくり商社』集団です。当社は同業他社とは一線を画す、モノづくりが解るユニークな事業を展開しています。モノづくりをする上で環境は重要な要素であり、モノづくりの基盤でもあります。環境に取り組むことは、1.『循環型社会』、2.『低炭素社会』、3.『自然共生社会』を実現し、社会的責任を果たすと同時に、当社グループの成長にも寄与していくものと考えています。企業努力によりCO<sub>2</sub>や廃棄物などの環境負荷を低減させていくのみならず、上記3つの社会実現に向けた事業活動を深耕させ、国内外へ展開していくことが当社グループのミッションであると認識しています。

当社グループにおける取り組み事例を簡単に申し上げますと、先ずは『循環型社会』の実現へ向けた一例として、従来より金属(鉄・アルミ・貴金属他)・自動車・家電・紙類などのリサイクルを行っておりますが、中国等新興国でのリサイクル事業や希少資源であるHV車バッテリーや携帯電話のリサイクルなど、社会問題の解決に取り組んでおります。

また、『低炭素社会』については、再生可能エネルギーを利用した風力発電事業の世界各地での推進を始め、風力・太陽光発電システム・太陽熱発電プラントの販売、再生可能エネルギーによるIPP事業、澱粉工場排水からのバイオガス回収

や、CDM等の排出権ビジネス展開にも世界各地で取り組んでいます。

さて、3つめの『自然共生社会』については、環境法令順守はもちろん、環境リスクアセスメントを実施することで、汚染の予防を徹底しております。更に、国内外での植林活動への参加やe-ラーニングによる社内教育等を始めたところです。今年10月に名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議、所謂『COP10』が開催されました。これを一つの機会と捉え、『自然共生社会』の実現に向け、『モノづくり商社』の機能を如何なく発揮したいと考えています。

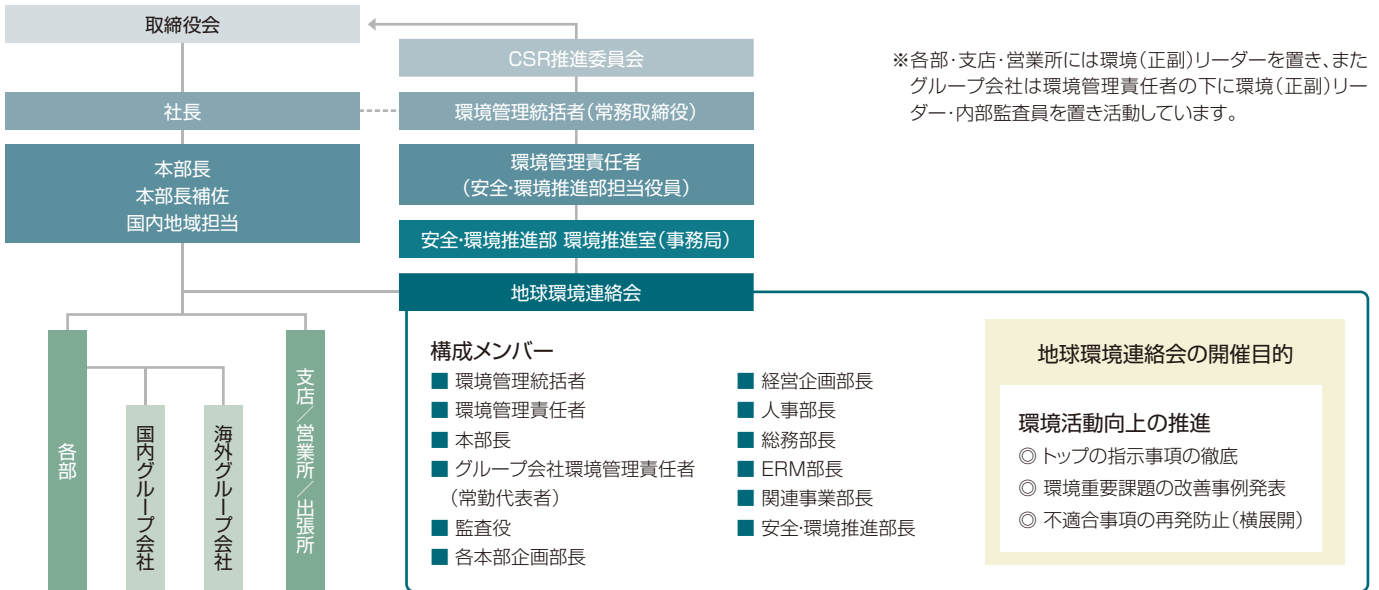
これらの3つの社会実現への取り組みをバランスよく継続し、発展させていくことが重要であると、繰り返し当社グループ従業員へ向かって語りかけるのが、当面の私の最大の仕事であると認識しています。

環境管理統括者  
常務取締役  
白井 琢三



## 推進体制

地球環境連絡会を環境マネジメント推進の母体とした環境管理体制を構築しています。



## 豊田通商グループの環境リスク管理

### 【1】ISO14001・環境マネジメントシステムの活用

グローバル環境連結経営の視点から、国内外グループ会社のISO14001認証取得を推進しており、環境法令順守・環境上の異常苦情ゼロ化の徹底を図る仕組みを設けています。2010年3月末現在で、国内69社、海外151社、計220社のグループ会社がISO14001の認証を取得しております。

### 【2】グローバル環境経営

豊田通商グループ環境方針の実現のため、国内外で同一の環境マネジメントマニュアルを使用し、管理のレベルの均一化を図っております。

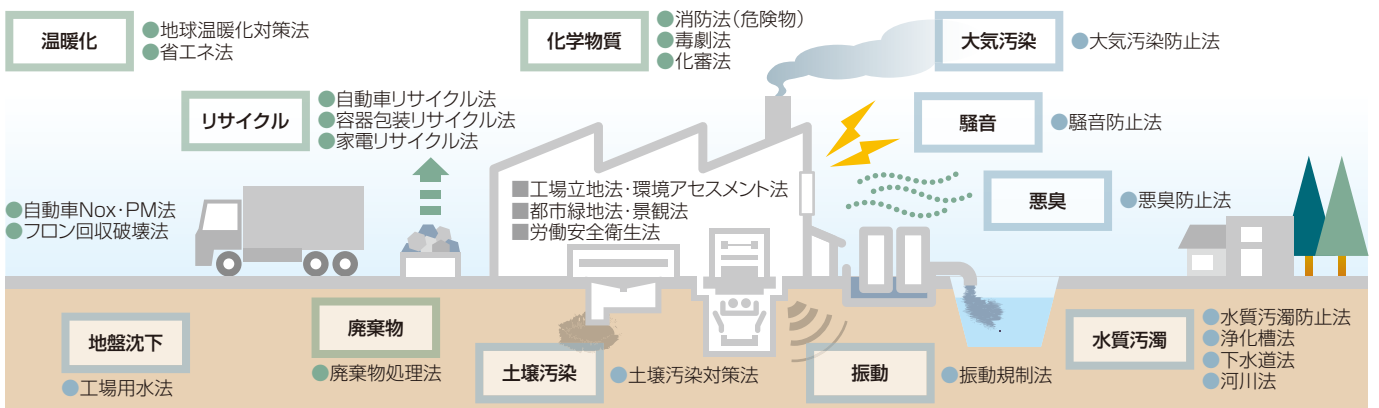
### 【3】新規事業の事前環境審査

豊田通商が経営責任を有する新規事業については、企画段階から環境影響を評価し環境対策を確実にすることで、環境法令順守および環境汚染の予防につなげております。

### 【4】緊急事態対応

緊急事態が起きた場合は、対応手順に基づき速やかに初期対応を行い、24時間以内に安全・環境推進部 環境推進室へ連絡する体制を確立しております。小さな環境事故・ヒヤリハットに対しても、原因追求、再発防止策、未然防止策、横展開を確実に実施することとしています。

## 我々を取巻く環境影響／環境法令



## 環境保全活動

### 【1】環境負荷低減につながるビジネスの構築

資源リサイクル	鉄、アルミ、貴金属、古紙、木材のリサイクル
再生可能エネルギー	風力・太陽光発電システムの販売
新エネルギー	バイオディーゼル燃料事業
新素材	植物由来ポリエチレンの販売
家畜排泄物処理	家畜排泄物の堆肥化促進システムの販売

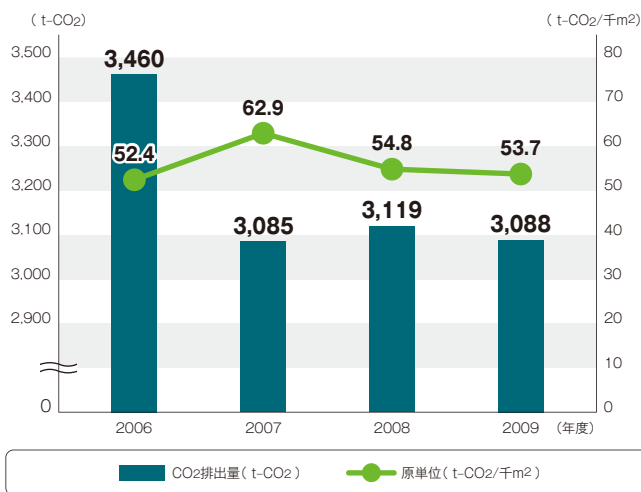
### 【2】オフィスにおける環境負荷低減活動

豊田通商は「低炭素社会」の実現のための諸施策として、クールビズ、ウォームビズ、エコドライブなどに努め、家庭でも一人一日CO<sub>2</sub> 1Kg削減キャンペーンを継続的に推進しています。

また、(社)日本貿易会の一員として、京都議定書目標達成のための自主行動計画に参加し、温室効果ガス削減に努めております。

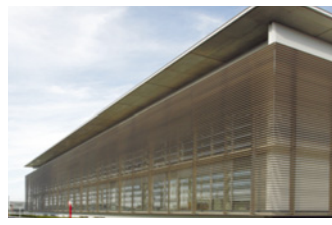
再生エネルギーの活用	太陽光発電機の設置	雨水の活用	トイレ排水に使用
省エネビル化	ルーバーの設置	空調管理	クールビズ・ウォームビズの実施

#### 豊田通商(床面積あたり)



#### 当社の主な取り組み例

対象エネルギー	電気・ガス
対象範囲	名古屋本社、東京本社、大阪本社他23拠点



ルーバーの設置(豊田支店)

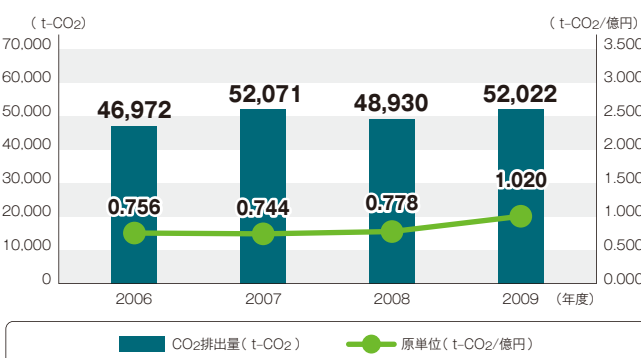


太陽光発電システムの設置(豊田支店、北海道支店)



### 【3】国内豊田通商グループにおける環境負荷低減活動

#### グループ会社(売上高あたり)



#### 当社グループの主な取り組み例

照明の削減	明かり窓の設置
非稼働停止	休業時の使用電力削減
寄せ止め	生産の集約

対象グループ会社数	
2006年度	70社
2007年度	69社
2008年度	66社
2009年度	72社



明かり窓(豊通ニューバック)

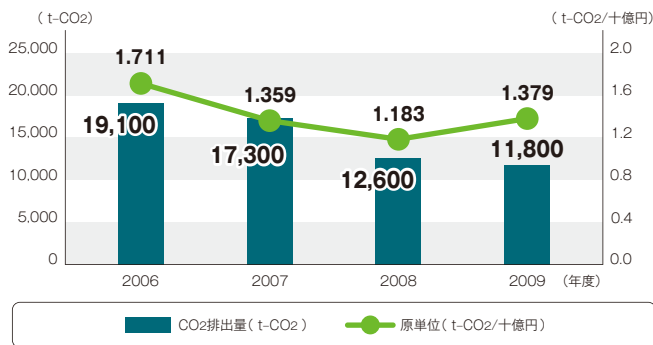


## 【4】物流における環境負荷低減活動(省エネ法 特定荷主)

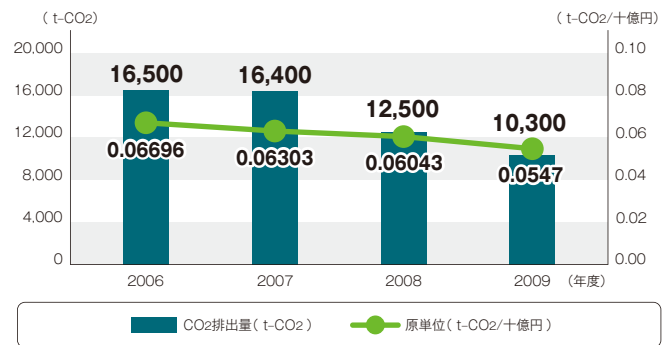
### ■ 当社グループの主な取り組み事例

モーダルシフト	トラック輸送を鉄道へ
組立サイト変更によるトラック輸送効率化	部品を輸送し顧客周辺で組付け完成品
輸配送共同化による動脈／静脈輸送効率化	納入拠点を顧客の近隣に新設し、ルート直送化と短縮、輸送の共同化を実現
積載率向上	鋼板コイルの積載量を従来の12.4t/コンテナから、27.45t/コンテナ積載に改善

### ■ 特定荷主(豊田通商)

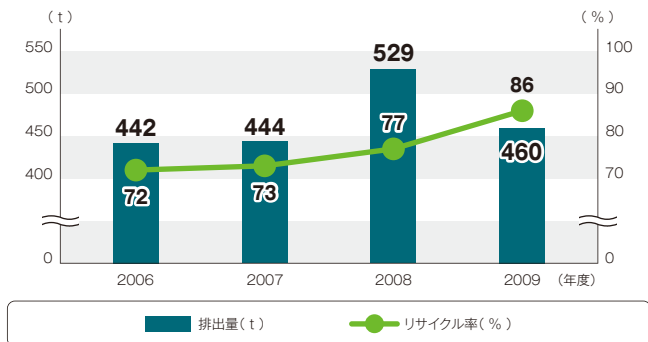


### ■ 特定荷主(豊田スチールセンター)



## 【5】廃棄物発生量削減・再資源化活動

### ■ 豊田通商



【対象範囲】名古屋本社、東京本社  
 注)2009年度はゴミの処分・リサイクル実態を洗い出し、リサイクル率の徹底調査を実施



コンポスト式生ゴミ処理機 (名古屋本社)

## ■ オールトヨタ生産環境会議メンバーとしての活動

トヨタ自動車グループの環境活動である、オールトヨタ生産環境会議・生産環境連絡会のメンバーとして、豊田通商は環境保全に参画しています。



オールトヨタ環境月間ポスター

## 豊田通商を主体とした主な環境活動

- クールビズ実施(6月～9月)：室温28℃で固定
- ウォームビズ実施(12月～3月)：室温22℃で固定
- ライトダウンキャンペーンへの参加 (6月21日、7月7日)
- eラーニング「eco検定編」等の開設(4月～)
- 6月環境月間活動① 豊田通商社内および、全グループ会社に対し環境月間ポスター配布／掲示(6月)
- 6月環境月間活動② トヨタ自動車 堤工場 サステイナブル・プラント見学ツアー実施(6月30日)
- 第1回豊田通商グループ「環境賞」創設(5社受賞)(11月27日)

### e-ラーニング

- [1]ISO14001(基礎編・規格編)：2009年4月開始
- [2]エコ検定(Part1～17)：2009年6月開始
- [3]生物多様性(Part1～5)：2009年12月開始
- [4]受講者数

ISO14001(基礎編・規格編)	エコ検定／生物多様性
2,050名	6,490名



トヨタ自動車 堤工場  
サステイナブル・プラント見学ツアー

☆☆ 6月は環境月間です ☆☆

環境月間として下記取組みを実施します。

- (1) クールビズ実施(6月～9月)
- (2) ライトダウンキャンペーンへの参加(6月21日&7月7日実施)
- (3) eラーニング「eco検定編」の実施
- (4) TBC/堤工場見学「Think & Act」自ら考え、環境に取り組みしましょう。

クールビズ  
名古屋本社エレベータ内画面表示



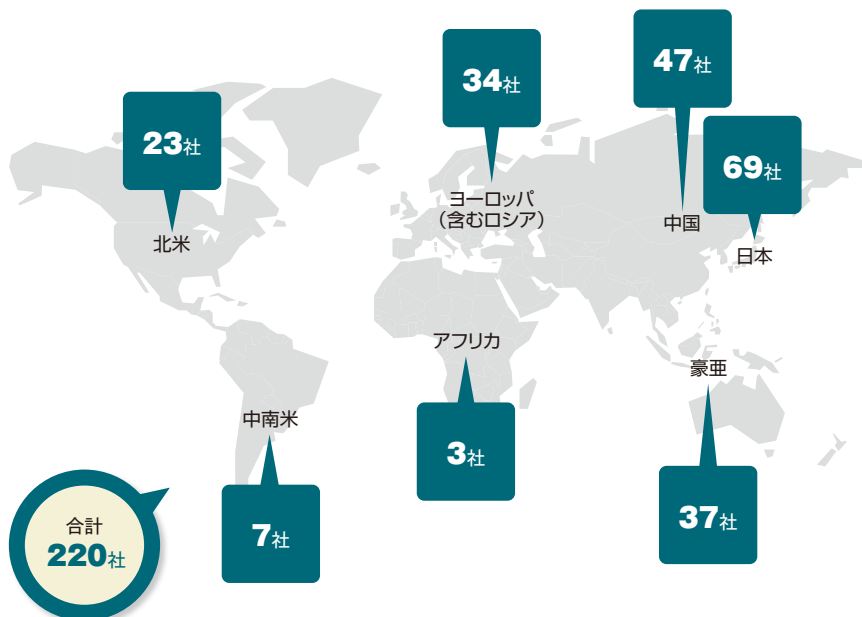
ウォームビズ  
名古屋本社エレベータ内画面表示



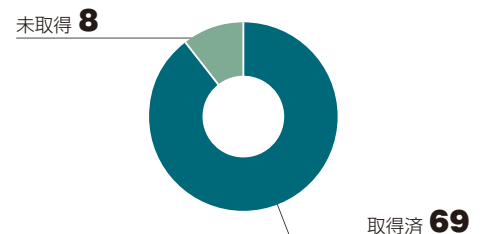
第1回環境賞授与式(5社)

## 豊田通商グループ会社ISO14001 認証取得状況

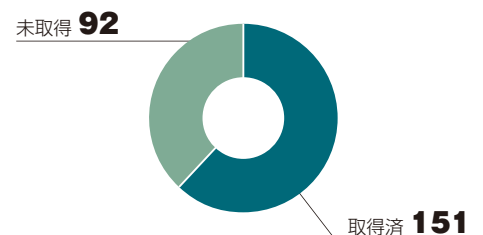
2010年3月31日現在



### 国内認証取得状況



### 海外認証取得状況



## 豊田通商グループのISO14001活動の流れ

### 1 ISOセミナー



- [1]開催 : 2009年5月11日～21日 名古屋・東京・大阪で開催  
 [2]内容 : ①企画の重要ポイントの理解  
 ②過去の指摘事例紹介  
 ③内部監査員心得  
 ④内部監査計画・チェックリスト作成  
 ⑤模擬内部監査

#### [3]参加者数

豊田通商	グループ会社	計
234名	415名	649名

### 2 内部監査員セミナー



- [1]開催 : 2009年5月25日～6月10日 名古屋・東京で開催  
 [2]内容 : ①ISO14001内部監査の要求事項  
 ②監査の構成、監査員の役割および責任  
 ③監査の計画  
 ④不適合と改善事項の識別および報告  
 ⑤模擬監査  
 ⑥修正、是正処置、フォローアップおよび是正処置の評価

#### [3]参加者数

名古屋	東京	計
40名	20名	60名

### 3 内部監査の実施



- [1]実施期間 : 2009年6月15日～7月31日  
 [2]重点監査項目 : 1) マネジメントレビュー指示事項取り組み状況  
 ①CO<sub>2</sub>削減計画、進捗管理、目標達成状況等  
 ②漏れの無いリスク・法令管理体制  
 ③環境ビジネスへの取り組み状況  
 2) 過去の審査指摘事項の横展開実施の確認

#### [3]内部監査対象

豊田通商	グループ会社
90部署	64社

### 4 第三者監査の実施(更新審査)



- [1]実施期間 : 2009年9月7日～18日  
 [2]重点審査項目 : ①マネジメントシステムの一体化  
 ②目標管理  
 ③コンプライアンスについて 他

#### [3]審査対象

豊田通商	グループ会社
90部署	64社

### 5 地球環境連絡会



- [1]実施 : 2009年11月27日 名古屋で開催(東京/大阪/北海道はTV会議接続)  
 [2]内容 : ①活動報告  
 ②更新審査総括  
 ③第1回環境賞授与式(受賞会社事例紹介)

#### [3]参加者数

豊田通商	グループ会社
24名	76名



- 豊田通商は2010年10月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に地元企業として支援しました。



# コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

## コーポレート・ガバナンス体制

### ● コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

豊田通商グループでは、グループ基本理念において、「人・社会・地球との共存共栄をはかり、豊かな社会づくりに貢献する価値創造企業を目指す」ことを企業理念として掲げています。この基本理念を実現するために、さらなる経営の効率化、透明化、コ

ンプライアンスの徹底、ならびに財務体質の健全化を積極的に推進しています。

また広く豊田通商グループをご理解いただくために、広報・IR活動の一層の充実を図っていきたくと考えています。

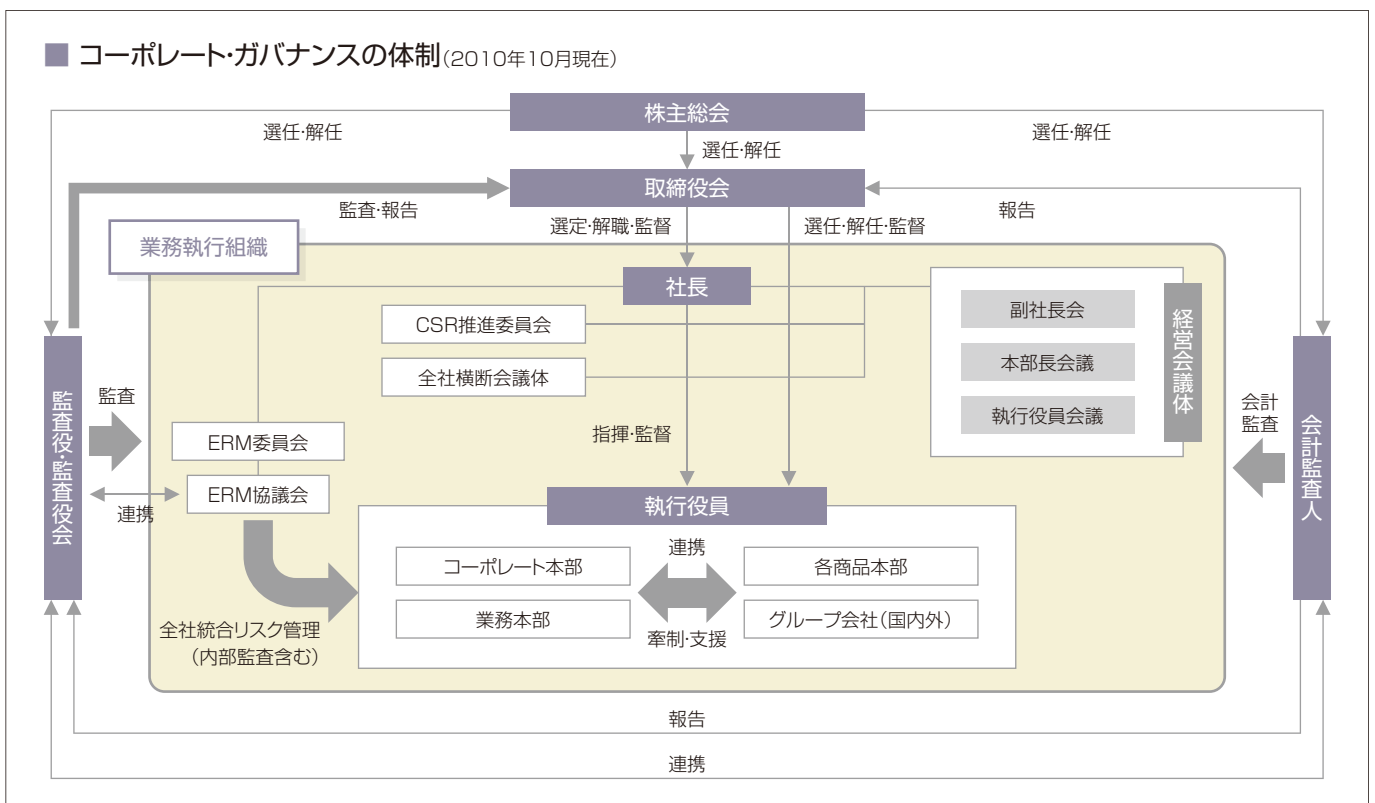
### ● コーポレート・ガバナンス体制

豊田通商は、企業統治システムとして「監査役制度」を採用しています。取締役の職務執行の監査については、監査役5名によって行われています。そのうち3名の社外監査役により、社外の視点からのチェックも実施されています。また監査役は、会計監査人の監査方法および結果に対する相当性も監査し、監査上の重要ポイントについて情報・意見交換を行い、両者の連携により双方の監査の品質向上、効率化を進め、ガバナンスの充実・強化を図っています。

また豊田通商は、本部制による連結経営を推進しており、現在、営業6本部、コーポレート本部、業務本部の、計8本部の組織編成になっています。各本部の本部長は、取締役から選任され、全社経営と担当本部の職務執行の両面を把握する役割を担

い、把握した情報については、本部長会議等において迅速な情報の伝達と共有を行っています。また2006年4月からは、経営の効率化と内部統制の強化を目的に、執行役員制度を導入し、取締役会をスリム化して、取締役は全社的経営に、執行役員は本部長補佐の立場で本部経営に、それぞれ専念することで意思決定の迅速化を図っています。全社経営（取締役）と職務執行（執行役員）の分離によって、権限と責任の明確化を図り、取締役会による取締役および執行役員の職務執行状況の監督機能を強化して、内部統制の充実を図っています。

その他、全社横断的な検討課題については、全社横断会議体を設け、取締役および執行役員によって経営課題ごとに対策を検討し、必要に応じて取締役会に諮っています。



## 内部統制システム

豊田通商グループの基本理念に基づき、2006年5月の取締役会において、「内部統制システム構築の基本方針」を定め、取締役の職務を明確にし、会社の業務の適正を確保する体制の整備状況を適時適確に確認できる体制を構築しており、さらに環境の変化に応じた基本方針の改定を実施しております。この基本方針の目的は、豊田通商グループの業務の適正を確保するための体制を整備することにより、豊田通商グループ固有の価値観・信念・日々の行動原則である「豊田通商グループウェイ」を継承・深化させ、顧客視点での価値創造を推進し、豊田通商グループの社会的使命を果たすことにあります。

### ● コンプライアンス体制

取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するために、さまざまな施策を実施しています。例えば行動倫理ガイドやその携帯版の全役員への配布、社長を委員長とするCSR推進委員会の設置（P5参照）、本部長会議や執行役員会議等における本部間の情報共有と相互牽制を行っています。また全社統合リスク管理を行うERM部が業務プロセスにおける業務執行の評価・管理・牽制およびモニタリングの実施、財務報告の信頼性確保のシステム整備、内部通報制度の設置、内部監査などを実施しています。

### ● リスク管理体制

損失の危険を管理するために、各種リスクに関する管理規程の整備、研修の実施、マニュアルの配布等を行っています。豊田通商の事業活動において、特に留意を要する投融資リスク、信用リスク、市場リスク、労働安全衛生及び環境保全に関するリスクについては、ガイドラインあるいは管理規程を整備し、リスクの適切な把握と管理を実施しています。その他に情報セキュリティ、緊急事態発生時管理などについても、それぞれの専門部署において、適切な管理体制を構築しています。また、ERM委員会においてリスクに関する全社的な把握と問題の発見に努めています。

### ● 情報管理体制

情報の保存および管理に関して、「文書規程」および「文書の保存に関する取扱基準」等を定め、文書ごとの保存責任部署、保存期間等を定めています。また機密情報の管理に関しては、「機密情報および個人情報管理規程」を定め、情報管理の徹底を行っています。

### ● 企業集団における業務の適正を確保するための体制

豊田通商グループにおける業務の適正性を確保するために、グループ横断会議体において、グループ方針の共有と情報の相互共有を図っています。また、子会社の業務執行を不当に害しない限りにおいての財務内容や業務執行上の重要事項の把握・管理を実施しており、子会社の体制に応じ、必要があれば、取締役・監査役を派遣して、業務の監視・監査を実施し、また当社ERM部による内部監査を実施しています。

### ● 反社会的勢力排除に向けた体制

暴力追放運動推進センターや警察本部組織犯罪対策局等の外部専門機関と連携し、反社会的勢力に対する体制を構築しております。また当社は、名古屋本社において愛知県企業防衛対策協議会、東京本社において警視庁管内特殊暴力防止対策連合会、大阪支店において大阪府企業防衛連合協議会にそれぞれ所属し、指導を受けるとともに情報の共有化を図っております。反社会的勢力から不当な要求を受けた場合には、総務部を対応統括部署として、警察等関連機関、弁護士と連携し、毅然とした態度で対応します。

## ステークホルダーとのコミュニケーション

### ホームページにおける情報開示

当社の会社基本情報、事業への取り組み、財務情報や採用情報など、幅広い情報をホームページに掲載しています。また当社からの情報開示だけでなく、あらゆるステークホルダーの方とのコミュニケーションツールとして、資料の請求やお問い合わせもしていただけるような窓口を設けています。

<http://www.toyota-tsusho.com>



ホームページ

### 株主の皆さまとのコミュニケーション

株主の皆さまと対話をする株主総会を重要な場と位置付けており、少しでも多くの株主の皆さまにご出席いただけるよう、集中日を避けて開催しています。

また総会においては、営業報告にパワーポイントを使用し、分かりやすい説明を心がけています。総会の様子は、出席できない株主さまや一般のステークホルダーの皆さまにもご覧いただけるよう、当社ホームページにおいてライブ配信とオンデマンド配信を行っています。一人でも多くの株主さまとコミュニケーションできるよう尽力しています。



ホームページ  
IR (投資家情報)  
トップ画面

### 個人投資家の方を対象としたIR説明会

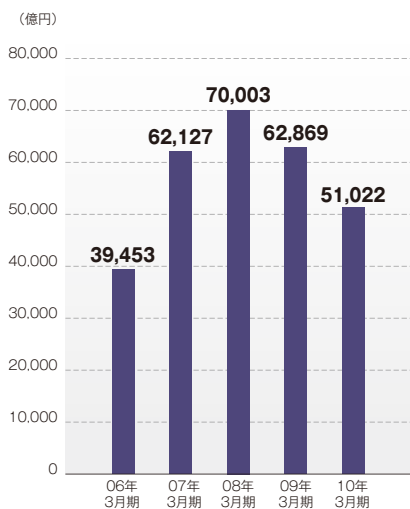
当社では、一人でも多くの投資家の皆さまに「豊田通商ファン」になっていただけるよう積極的な情報開示に努めていますが、今期も個人投資家の皆さまに当社の最近の取り組みをご理解いただくべく、「企業研究セミナー」に参加しました。当日は当社の経営ビジョン、長期経営計画などについてご説明させていただいた後、多数の方から貴重なご意見をいただくことができました。これらの意見をもとに今後も引き続き説明機会の充実に努めていきます。



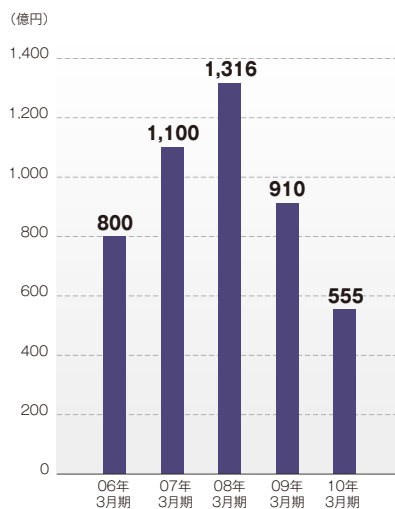


# 連結財務ハイライト (2010年3月期)

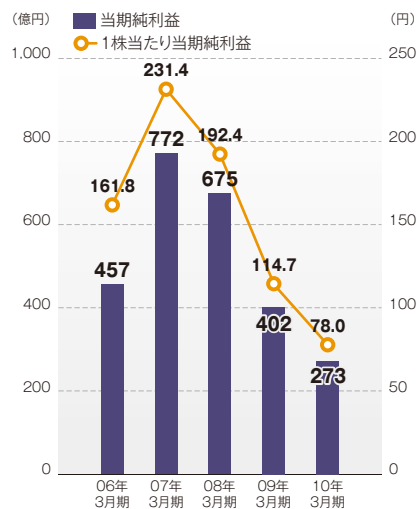
■ 連結売上高



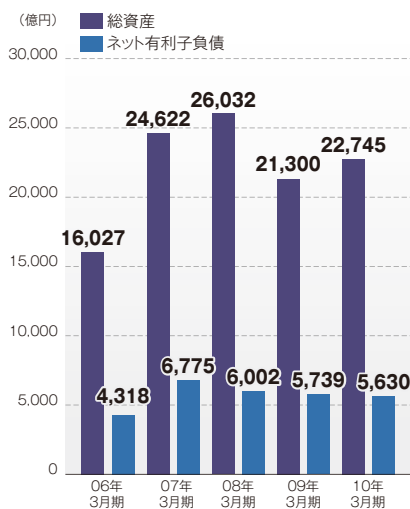
■ 連結営業利益



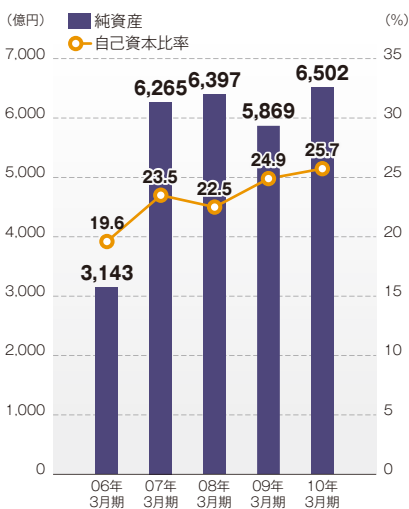
■ 当期純利益・1株当たり当期純利益



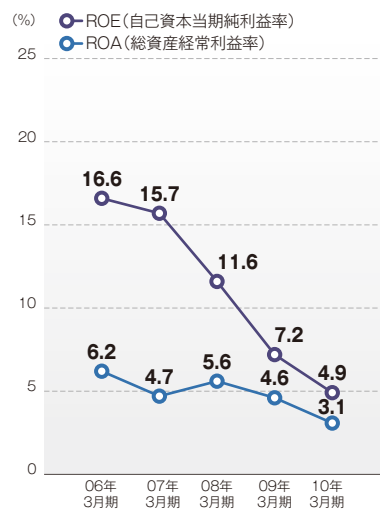
■ 総資産・ネット有利子負債



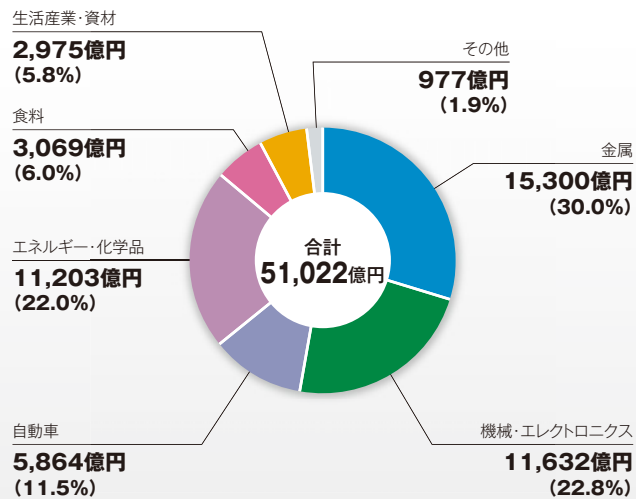
■ 純資産・自己資本比率



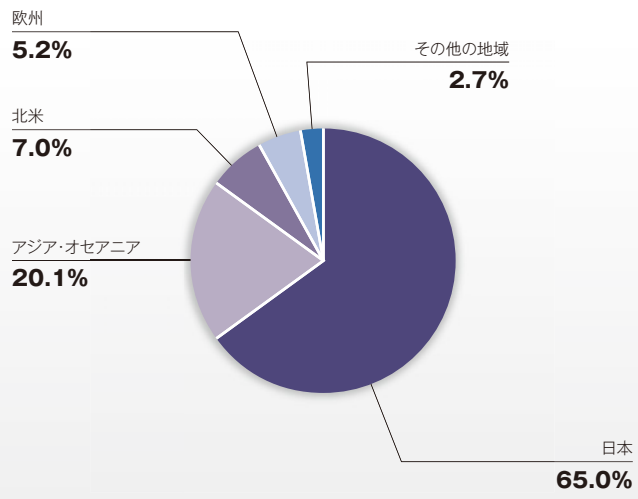
■ ROE・ROA



■ 商品セグメント別売上高構成比 (2010年3月期)



■ 地域セグメント別売上高構成比 (2010年3月期)



# 豊田通商グループの活動記録

## 環境に関する活動

1970年 7月	「豊田メタルスクラップ(株)」(現、豊田メタル(株))設立	10月	フタバ産業(株)、(株)ティーワイケーと共同にてディーゼルエンジン排ガス浄化装置「DPF」を開発し、発売開始
1973年 5月	「豊田ケミカルエンジニアリング(株)」設立		インドネシアにアルミ溶湯・再生塊会社設立
1980年 4月	安全管理室を豊田支店に設置		第2回「環境報告書」をホームページ上に掲載
1985年 11月	第1回豊通安全衛生協力会総会開催		トンガ向け太陽光発電調査事業をNEDOより受託
1992年 10月	豊田メタル(株)がリサイクル功労企業として通産大臣賞受賞	11月	ブラジルランドフィルガス回収発電調査事業を環境省(GEC)より受託
1994年 3月	「豊通リサイクル(株)」設立	11月	ロシア統一電力会社(UES RAO)と排出権取引MOUを締結
4月	コピー削減活動の全社展開実施		ポーランドにアルミ溶湯・再生塊会社設立
1999年 7月	環境方針策定	12月	電源開発(株)と合併で「(株)ジェイウインド田原」設立
10月	経営企画部に環境チーム設置		社内報で「環境特集」
12月	第1回地球環境連絡会開催		ISO14001認証更新
2000年 6月	風力発電機代理店の「ヴェステックジャパン(株)」を合併で設立	2004年 1月	豊通リサイクル(株)を完全子会社化
10月	中国遼寧省鉄鋼2社に対する省エネ調査事業をNEDOより受託		同社、自動車リサイクル法に関連しASR事業に進出
12月	ISO14001認証取得	4月	豊田ケミカルエンジニアリング(株)「環境報告書2003」が東洋経済新報社、グリーンリポーターフォーラム共催の「第7回環境報告書賞」において環境報告書賞中小企業賞を受賞
2001年 3月	総務部内に地球環境チームを移管	6月	ロシアハバロフスク発電改修調査事業を環境省(GEC)より受託
6月	安全管理室を改組、また総務部内の地球環境チームと合同し、環境安全推進室となる	10月	光触媒加工テキスタイルの開発・販売開始
	CO <sub>2</sub> 排出権取引会社「ナットソースジャパン」へ事業参画し排出権取引に参入		「グリーンメタルズ北陸(株)」設立
9月	風力発電事業会社「(株)ウインドテック南十和田」設立	2005年 3月	万国博覧会「愛・地球博」に風力発電により電力供給
10月	風力発電事業会社「(株)ウインドテック横浜」設立	4月	「(株)九州スメルティングテクノロジー」設立
	環境安全推進室から環境安全推進部に呼称変更	6月	「チーム・マイナス6%」に参加
11月	豊田紡織(株)と合併でリサイクル防音材製造・販売会社「エコテクノロジー社」(米国)を設立	7月	万国博覧会「愛・地球博」シャトルバスへGTL燃料供給
2002年 3月	「(株)エコライン」設立	11月	「(株)T-ST」設立
	「(株)エネ・ビジョン」設立	2006年 2月	タイにて東京電力(株)とのバイオガス発電事業(CDM)へ出資
4月	新エネルギーDME燃料の100トン/日プラント実証試験開発費負担参加(2006年まで)	6月	トヨタ自動車(株)、(株)メニコンとバイオマス新システムを開発
	英国が世界に先駆けて開設した排出権市場にトレーダーとして参加	10月	総合ペーパーリサイクル事業の「豊通ペーパーリソース(株)」設立
5月	風力発電設備保守会社の「(株)ウインドアルファ」設立	2007年 2月	次世代クリーン燃料としてジメチルエーテル(DME)の普及促進を目的として製造合併会社設立
10月	中国コジエネ調査事業をNEDOより受託	10月	中国からの温室効果ガス排出権獲得
	コージェネレーション設備に関し、業界初となるEC取引サイトを立ち上げ	2008年 1月	バイオディーゼル燃料製造の新たなプロセスを開発
11月	風力発電事業会社「(株)ウインドテック坊津」設立	2月	ユニフォーム業界における新リサイクルシステムを構築
12月	第1回「環境報告書」をホームページ上に掲載	4月	「(株)北海道スメルティングテクノロジー」設立
	マイナスイオン発生器「イオンヴェール」(豊田中央研究所開発)発売	6月	(株)ユーラスエナジーホールディングス、初の太陽光発電所が完成
	ブラジル製鉄会社向けCDM案件が、日本政府よりCDM第一号CDM案件として認証取得	9月	植物由来ポリエチレン販売における業務提携
2003年 1月	名古屋本社 現在地に移転(環境保全対応ビル)	12月	クウェート国電力・水省と太陽熱複合発電事業性調査に関する覚書締結
3月	スチールラッシング材、エコラッシュ(Eco-Lash)タイプS・P発売		燃料DME生産・出荷体制確立および初出荷
6月	東京都の風力発電パイロット事業に参画、電源開発(株)と合併で「(株)ジェイウインド東京」設立	2009年 2月	タイにおけるバイオガスCDMプロジェクトの国連によるCDMプロジェクト登録
	丸王製紙(株)と、共同出資により、製紙会社から排出される廃棄物=ペーパー・スラッジの再生事業	6月	バイオ油原料植物(ジャトロファ)研究販売企業への出資
	廃棄物熱利用および加工販売の準備会社	7月	太陽光発電普及のコアとなるリチウムイオン電池事業への参画
	「富士環境マテリアル(株)」設立	2010年 1月	アルゼンチン・オラロス塩湖でのリチウム資源開発に参画
			ユーラスエナジーホールディングスに追加出資

社会貢献に関する活動

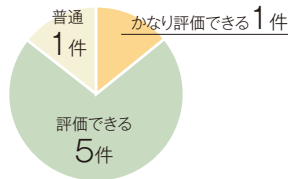
1973年～	名古屋市緑区聖園天使園にクリスマスツリーをプレゼント 現在は同時にショートケーキもお届けしている	2005年 11月	バキスタン北部地震に対する義援金抛出 「クリーンおおさか2005」大阪市一斉清掃活動への参加
1979年～	名古屋フィルハーモニー交響楽団に協賛支援	2006年 3月	フィリピン・レイテ島大規模地滑り被害に対する義援金抛出
1988年～	(財)豊田通商国際育英会を設立、援助 本社周辺における交通安全推進活動を開始	6月	インドネシア・ジャワ島地震に対する義援金抛出
1993年～	名古屋グランパスエイトに協賛支援	2007年 4月	日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会支援
1997年～	(財)名古屋国際芸術文化交流財団 (名古屋ボストン美術館)への寄付	7月	「絵本を届ける運動」実施
2002年～	豊田支店・刈谷支店社員による、オフィス周辺の清掃活動	2008年 5月	「御堂筋完成70周年記念大掃除」 中国・四川省大地震に対する義援金抛出
2003年～	「愛・地球博」への協賛支援	6月	岩手・宮城内陸地震に対する義援金抛出
2004年 8月	モンゴルに当社社員の制服を寄贈 トヨタツウショウインドネシアによる地元困窮家庭の 小学生のための奨学金募金寄付	8月	「富士山の森づくり」下草刈り実施
10月	新潟中越地震に対する義援金抛出 名城大学主催の起業講座にて、「企業内起業」講義を実施 (講師 武山栄造会長(当時))	10月	「絵本を届ける運動」実施
11月	名古屋大学大学院工学研究科開催のセミナーにて、 社員による「風力発電ビジネスの動向」講演を実施	2009年 4月	東海車椅子ツインバスケットボール大会支援 「豊田通商・あいおい損保カップ」開催
2005年 1月	インド洋大津波・スマトラ沖大地震に対する義援金抛出	5月	「富士山の森づくり」植林実施
7月	「子ども環境サミット2005」に協賛支援	9月	第3回「絵本を届ける運動」実施
9月	アメリカ大型ハリケーン「カトリーナ」被害に対する義援金抛出	11月	フィリピン台風16号 義援金抛出
		12月	インドネシア・スマトラ沖地震 義援金抛出 サモア沖地震 義援金抛出
		2010年 1月	ハイチ沖地震 義援金抛出
		3月	チリ大地震 義援金抛出 第4回「絵本を届ける運動」実施

「CSRレポート2009」アンケートに寄せられたご意見・ご感想(計7件)

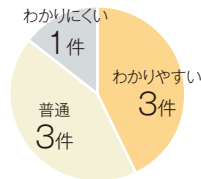
レポートをお読みになった  
立場について(複数回答)

お取引先	3件
お客さま	2件
調査・分析機関	1件
その他	1件

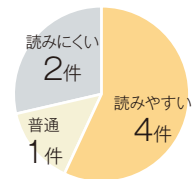
豊田通商のCSR活動の  
取り組みへの評価



レポートの内容



レポートの構成



レポートの掲載内容のうち関心を持った項目(複数回答)

●ごあいさつ	1件	●特集6.生活産業・資材本部	1件	●環境トピックス	1件
●豊田通商グループの理念	3件	●社会貢献活動	5件	●コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス	1件
●特集3.自動車本部	1件	●安全への取り組み	1件	●豊田通商グループの活動記録	1件
●特集4.食料本部	2件	●環境への取り組み	1件		

(計18件)

主なご意見・ご指摘

[ レポートについて充実・改善すべき内容 ]

- CSRに関する社外の評価や活動に関係する方々の声を掲載しても面白いように思います。
- アンケートはWebの画面上で回答できたら便利だと思いました。

[ 豊田通商の活動についてのご意見・ご感想・期待 ]

- 教育・福祉・環境活動のバランスが良いと思います。せっかくなのでWebもCSRを充実させて欲しいです。
- 食料や医療分野など非自動車部門での取り組みに今後さらに期待しています。
- 世界中で活動しているので、今後も途上国などへの援助を続けて欲しい。



 **TOYOTA TSUSHO CORPORATION**  
〒450-8575 名古屋市中村区名駅四丁目9番8号 センチュリー豊田ビル

